

ホーム・ティーチングの根本的な土台	1
<伝道部長会メッセージ>	アドニー・Y・小松 4
扶助協会とホーム・ティーチング	5
<系図のページ>	8
<アロン神権者用テキスト>	12
<メルケゼデク神権者用テキスト>	32
<扶助協会レッスン>	57

聖徒の道 11巻1号

1967年1月1日



ホーム・ティーチングの

根本的な土台



妻がいません」と答えました。御婦人は私に「では複数結婚が貴方の宗教の目的ではないとしたら、何が目的ですか？」とたづねました。「私たちはクリスチャンです」と答えると「私たちもそうです。」と御婦人も答えました。

そしてこの御婦人はとても重要な質問をして、「ではあなたがたの教会の特徴は何ですか？ あなたの教会と私のそれとの違いは何んですか？」とたづねました「いくつかあります」と答え「直接の啓示による神の権能がそのおもなものです」といいました。このことについて話したいのですが、神の権能だけが特徴ではありません。ローマカトリックは使徒ペテロから直接神の権利を受け継いでいると主張しています。ギリシャ正公会はペテロの死後生きていた五人の使徒からの権能を主張します。北アメリカのコプト教会もまた権能を主張し、このようにローマカトリック、ギリシャ正公会や、コプト教会はそれぞれ神の権能を主張しますが直接の啓示による神の権能を持つ教会は唯一つしかありません。

数百年前、アメリカのパプテスト教会の長の職を辞めるにあたって言った、ロージャーウィリアムスの言葉は正しいのです。「現在正しく組織された教会は地上にはないし、誰れも教会の儀式を行う許しを持たない人もいない。また新たに教会の偉大な長から使徒が遺はされなければそのようなことはできない。が私

兄弟姉妹、教会で開かれるこの種のものとしては最初の、そして歴史的なこの集會に皆様と集う機会を喜んでいきます。今私は神権の権能について一言、二言話すように導かれています。一九二一年ラバティ・ステーク部のヒュー・J・キヤノン部長と教会の各伝道部を訪問した

時、船が港を出るとまもなく、見知らぬある船客が、御婦人と一緒に、自己紹介しました。しばらく会話を交してから、御婦人は、申し訳なきように「一つお聞きしてもよろしいでしょうか？」といいました。そこで私は「ええどうぞ、でも聞かれる前に答えますと、私は一人しか

はそれを待っている」と。

一八二〇年神の使いは真に来ました。神御自身と御子は、予言者ジョセフ・ミスに現れ、少年、若い予言者は「こはわが愛子なり……彼に聞け」という声を聞きました。次いで神の使たちは神権を回復されました。パプテスマのヨハネ、このヨハネは生まれた時から教えられ救い主御自身から認められた、アロン神権を回復し、いかなるクリスチャンも疑うことのないペテロ、ヤコブ、およびヨハネが来て予言者、ジョセフ・ミスにメルケゼデク神権を回復しました。

管理監督によって管理されるアロン神権には祭司、教師、および執事の職があります。メルケゼデク神権は三人の大祭司、一人の長と二人の顧問により管理されます。昔パウロが言った言葉にあるように、この地に大祭司、七十人そして長老もありません。

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師とし、ある人を教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者か、神の子を信じる信仰の一致と、彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ人への手紙四・十一〜十三)

今話しているのは「聖徒達をととのえ

奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」と言う教えを持って聖徒たちをととのえさせるために訪れて行く責任ある人です。

教会にはすでに話したように、ステーク部長の管理のもとに長老があり、七十人も特にその任に召され大祭司も定員会があります。

このように教会には、教会の宗務とは別にはっきりと分れた二つの組織があり、宗務には、ステーク部や伝道部があります。ステーク部には、ステーク部長を二人の副部長、並びにいくつかのワイド部とそこに監督がいます。大神権には使徒、大祭司、七十人、長老と教会の主管長直接の管理の下にあります。七十人は啓示により召された特別の会長会があります。長老は宗務の長として、知られるステーク部長および伝道部長の管理の下にあります。アロン神権は、アロン神権会長会の職を持つ監督会の管理の下にあり監督は聖任にもない祭司定員会長であります。教師も執事もワイド部の監督会の管理の下にあります。

こういう訳で教会には二つの権能の元があり、一つは定員会そして、もう一つは宗務と分れています。

各定員会は特に任命された三人によって管理されます。大祭司定員会長は、今後各ステークのステーク部長となりましてこの定員会の会長は宗務の組織で知られるステーク部の長であります。

七十人は独自の組織を持ち、長老定員会の会長会はステーク部の管理を受けま

す。定員会の会長の責任は定員会の各会員と逢い共に座して話し合い会員各自の責任を教えることです。くり返し言いますが各会員と共に座して話し合い会員各自の責任を教えることです。定員会の一団として集うときは、ステーク部長をのぞいて宗教的な権能に関係しません。

定員会の会長会は、それが大祭司であっても、七十人であっても、また長老であっても、定員会の会員と話し合っており、それぞれの責任を教え、責任を果たしているかをどうかを見とどける責任があります。この組織は教会を通して他と異なる組織であり、今日、教会は意味あるいは重要さを理解していません。

世間に対して秩序の秘決は何かというなら、定員会が末日聖徒イエス・キリスト教会の何であるかといえるのです。定員会は友情、愛や兄弟として、また愛を団体として助成しなければなりません。個人として教会の組織に任えねばなりません。各自は定員会の会員としてではなく、教会の会員として宗務の権能に従います。

各定員会の会員は、それぞれ属する定員会の会長会に従い定員会会員を一致させるのは定員会会長会の責任であります。

もっとよく解るように、今一度船に乗

つていたときにあったことを話してみよう。一人の男が私を見て気付いた様子で、こちらにやって来ましたが、私はその人が誰であるか、わかりませんでした。私の手を取って握りましたがすぐ「失礼しました。」と言って手をはなし、私のつけていた星と三日月のピン(妻から贈られた)に目をやっていました。このピンの象徴するものを知っているようでした。この人は私の手を取って握りましたがそれにこたえなかったのですぐはなしました。全く知らない人でしたが象徴するものを見て友情を持つとうとしました。

ときとして私たちはこれと同じ精神を定員会に持たねばなりません。定員会はお互いに助け合い、霊的な面だけではなく経済面やあらゆる面においても助け合うように心を一つにしなければなりません。もしこの一致の精神を定員会として持つことが出来れば、教会の完全な神権組織の意味がわかりはじめたと言えます。

今一度くり返しますと、監督は長老や七十人や大祭司に命令する権能はないにしても、定員会の会員は監督の宗務上の導きと管理を受けます。ワード部会員として、什分の一を収め、日曜学校の会長MIAやその他の宗務上の役に召されるのは監督に従いますが、定員会の仕事をすると時は会長会に従い、もし定員会の会員が正しい標準にあった生活をしてい

ないとき、この人をDSEFELLOWSHIPするのもその定員会の権利です。私はある七十人定員会で不適切なために友情の手をひっこめてしまった例を思い出し、定員会は破門する権利を持っていませんが自らふさわしくなるまで友情の手を差しひかえる権利があります。

民間組織の権威者チャールズ・ゼプリン氏をデグス郡とウェバー郡の間にある灌漑用水の視察に案内しようとしたときの会話を思い出します。視察に出かけるとまもなく私たちは灌漑用水の話ではなく教会の組織について話していました。行く道私は「左側にあるのが第一ワード部で、右に見えるのが第九ワード部です。各ワード部には祭司教師、執事があり、それぞれ会長会が管理しています。」そして、教会の宗務と定員会の組織を説明しました。するとゼプリン氏は「ワード部」という言い方を何か教育機関であるかのように受け取ったらしく「どうして皆んなをワード部に来させますか?」とたずねましたので、私は皆んな一人一人が責任を持っていますから、と答えました。氏は「世の中のすべての町にこの一皆んなが責任を持つことをどうやって教えたらよいだろうか?」と言われました。私は「どうしたらよいかわかりませんが、皆んなが同じ方向に行かなくてはね」と答えました。すると氏はその共通するものは宗教でなければ無理でしょうか?」と言われ「それは解りま

せんが、私たちにとっては宗教であり、非常にうまく行っています」と答えました。教会の組織は神の指示によるものであり、私達がその組織の円滑さをはかれば、三百人いるワード部であろうと、五千人いるステーキ部であろうとまた世界のどの国であろうと効果的であり、大祭司、七十人や長老としてどうしてホームテーチングに適用できるのでしょうか? 定員会として会員を教え導くことの重要性を強調したと同じです。ホームテーチングの兄弟たちは小神権者たちの助けをかりて「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせキリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ人への手紙第四章十二〜十三節)

ホームテチャーが責任を果すにあたって各会員の福祉に心をとめることは、もっともなことです。宗務上の責任者は自分の持つ権能をよりよく自覚し直接受ける導きによって正しく割り当てるようにします。

神の祝福があり新しいプログラムの精神をもたらすことができますよう、プランテーチングに代って行はれる新しい役割をはたすことができますよう、また神の御子から直接来る神権を常に自覚できますように折っています。神の祝福がありますようにイエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン

アドニー・Y・小松 (伝道部長)



愛する兄弟姉妹のみなさん

明けましておめでとぅ

【喜びます】

一九六六年は何と速く過ぎ去って行ってしまったことでしょうか。

消え去った歳月はもう私たちのものではありません。それは誠に素晴らしい楽しい経験でした。私たちはヒンクレー長老御夫妻及びハンクス長老御夫妻を、お迎えて三つの教会堂が献堂されました。宣教師たちのたゆまぬ努力と、会員たちの素晴らしい模範によって、多くの新しい家族たちがイエス・キリストの福音を受け入れました。

また、東北の福島、北九州、熊本及び

長崎の各地に支部を開設するために四つの新地域が伝道のために開かれました。

一九六七年は私たちの眼前に展開されました。そしてこの年を私たちの生涯に於ける最上の年となす可能性は私たちの直面する挑戦であります。この新年を計画するに当って私たちは、人は過去に生きるべきものでなくて過去から学ぶべきであることを念頭におくようにしましょう。

本年の計画を定めるに当って私たちは熱心に主の御業に従事していることを、はつきりさせましょう。私たちの多くが昨年中収入の十パーセントである自分の一を百パーセント払いました。本年も同様にするように決心しましょう。しかし私たちは時間に於ても少くとも十パーセント以上はいろいろな面の教会活動に参加することを確実にすべきであります。

本年度はホーム・ティーチング、福祉系図及び伝道計画を含む神権コーリレーション (相関) ・プログラムの使命に乗出します。伝道部、地方部及び支部の指導者を通じ、指示されてある通りにこれらのプログラムに積極的に参加しようではありませんか。これらのプログラムに関連してあなたに配布されるでしょう多くの書かれた資料を十分に時間をかけて勉強しましょう。神権コーリレーション・プログラムは一九六三年度に全教会を通じてシオンの組織されたステーク部

内で始められたものであります。

ホーム・ティーチングはこのプログラムの中で最も大切なものでありましょう。教会の兄弟たちが活発に参加することによって、その召しを発揚し、友なる会員を訪ね世話をする時彼らは福音の内にある愛と結合を感じる事ができるのであります。

私は、もし私たちが教会の会員として、この新しいプログラムに私たちの指導者たちを支持するならば、私たちの生活は美しく幸福にお互の間に愛と結合がもたらされるであろうことを知っております。

扶助協会とホーム・ティーチング <マリオン・G・ロムニ>

(1965年9月30日扶助協会年次大会ステーキ部役員会での話)

姉妹たちにとって長い一日だったと思います。そしてこの会の終りに、全ての心暖まる話の後に、私が話すことは少々ドライであるかも知れません。今日、話そうとしているテーマは扶助協会会長会より与えられました。話すようにたのまれましたテーマは「扶助協会とホームティーチング」です。背景として、このことを考えるにあたり、イエス・キリストの教えはこの世の生活をまっとうするためになくてはならないものであり、それに従って行くという根本的な真理を、頭に入れておきましょう。人は正しく教えられ、福音を實踐するようにはげまされることは、とても重要なことです。から主は自らいかにしたら良いかと言うひな形を作られました。

ひな形の大切な要素は次の五つの段階になります。

- 一、神は予言者に福音を啓示します
- 二、予言者はその旨証します
- 三、両親による子供の教育
- 四、神権を支持する
- 五、補助組織による助け

この形ははじめから守られて来ました、父なる神は自らエデンの園でアダムと、イブに教えました。神のすぐ御前からち切られた後も、エデンの園を指して行く途のあなたより声聞えて、彼ら……(モーセの書五章四節)主の誠命に従順なアダムに、報として天使を遣し、アダムに福音を教えました。モルモンはこの形

式を定められた慣習として引用し、主が選びたもうた者、予言者にキリストの御言葉を伝えました。

その者たちにキリストのことを証させることよって世の人の間に道を備えるにある。主なる神がこのように天使らを使い、またもうよって、右の選ばれた者以外のすべての世の人も、キリストを信じ、その心に聖霊を受けることのできる道が備えられるのである。このようにして、御父は世の人に立てたもうた誓約を果したもう。(モロナイ書七章三十一、三十三節) 主はアダムに教えてから子供たちに教えよと伝え「故にわれ汝に一つの誠命を与えてこれらのことを汝らの子らに教えしむ」(モーセの著六章五八節) 「アダムとイヴは……見る娘らにすべてのことを知らしめたり。」(同五章十二節)

聖典はいつの時代でも両親に導きをおたえています。アブラハムについて言えば、主は「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせる……たぬに彼を知ったのである」(創世紀十八章十九節) モーセは「努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければ、ならない。」(申命記六章七節)

モルモン経の中にこのような引用文がいたる所にあります。ニーファイは自分の両親を「善い」といい、父の知って

たすべての学問の中から教えを受けたとっています。

イエスは自分の父を正しい人と言つて「私の父が父の言葉で教え、また主の愛と誠命とを私に教えたから……かように父から教えを受けたから、私は私の神の御名を讃美する」(イノス書一節) モーサヤ王は彼の民にもし信じるなら「お前たちは自分の子供らに真の道を行うことと真面目でなければならぬことと互いに愛し、互いに助けねばならぬこととを教えるであらう」(モーサヤ書四章十五節)と伝えました。

他の聖句は神の神権と教会の組織が両親の教えに助けを与えていることを示しています。新約、旧約の聖書は神権と補助組織について語り、同じようなことがニーファイ人の間でも行なわれました。ベンジャミン王の言葉は集った民に宣べられました。(モーサヤ書二〇四節)

イエスがニーファイ人の所へおいでになった時「会堂や禮拜堂」「ニーファイ第三書十八章三十二節) について語りました。そして「汝らたびたび集会をせよ」(同二十二節) といわれました。モルモンは集ったことを「たびたび集会を開いて祈りをし、また主の御言葉を聞いた」(ニーファイ第四書十二節) と言っています。モロナイはこのことに関する記録を次のように記しています。

教会の会員たちは断食と祈りをし、また身も霊も救われることについて互いに

語るためにたびたび集った。また主イエスを記念してパンと葡萄酒をいただくためにただたび集った」(モロナイ書六章五・六節)

このいにしへの教義形式は現在に教訓を持っています。創世からそうであったように現在の神権時代においても主は選ばれた人に自から訪れて御自分の口から、また天使により福音を明らかにしました。予言者たちは啓示された福音の真实性を証し、多くの人は聖霊の力によって福音を理解し受け入れました。そして両親には子供たちを教えるようにと宣べられました。主は昔の形式と同じように、今日も、教会に神権と補助組織をもつて親たちの教育を助けています。

主は一八三一年の早期から聖餐式を始められていました。「汝なおさら充分に世の汚れに染らざるよう、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし」(教義と聖約五十九章九節)

私たちは神権定員会の組織や機能を他の補助組織、扶助協会、日曜学校、初等協会、系図、MIA、教会の学校、神殿計画、ファイヤーサイドや他の教えや、トレーニング等と同じようにその起源をたどって行くことが出来ませんが今はその話をする時と場所ではありませんが教会の導きのもとに得られる充分な知識と方法を啓示の根本的なものと絶えない主の霊感により教会の会員一人一人にイエス・キリストの福音を教える手助けをする

といえは充分です。

現在、教会の指導者は教会の教義と活動をお互いに調整するよう努めています。そして、不必要に重複したりまた、手ぬかりのないようにして統一された力を入れ、教会の全ての子供、青年や成人は聖霊の影響を受け教会の組織にあってあるいは家庭にあって、イエス・キリストの福音を教わるようにしています。

この相互調整プログラムは神権者と扶助協会の姉妹たちの果す役割は大きなものがあります。私たちは目的を果すためには、両親、神権者、神権定員会、補助組織、学校やその他の組織の指導者たちが義務を悟り、また各自が任命された務めを勤勉に勤める必要があります(教義と聖約七章九九節参照) これらすべての組織は教会の相互関係調整プログラムの代表者でありみんなが家庭を中心にした神権教育プログラムを見守るのです。

啓示に調和して、教会の相互関係調整プログラムの根本的な第一の目的は神権と家庭をあるべき所に置くこととあります。この目的のために多くの努力が払われてきました。神権のおもな責任の部分はホームテイピングを通して果されます。毎週行なわれるホームイブニング(家庭の夕べ)で福音を教える場として家庭に重きを置くことが強調されています。

主の教える形式によれば、補助組織を通して求められるものうち扶助協会の

しめる位置はきわめて高いものです。もちろんあなたは扶助協会は予言者ジョセフ・スミスにより組織された唯一の補助組織であることを知っておいでのことでしょう。また扶助協会のおもな働きを知っておいででしょうがそれを例挙しませう。

また扶助協会は教会のすべての婦人に任責し、また祝福をもたらすということも知っておいでのことでしょう。そこでこの目的を果たすにあたり、二つの分野に於いてある進歩をしなければなりません。その一つは、新しい会員を扶助協会の会員に誘い、他の一つは扶助協会の出席を増すことです。

扶助協会とホームテーチングは協力してこれらのことをなすことが出来ます。そして扶助協会の側としてなすべきことが沢山あります。あなたがたはそれぞれの集会や活動を興味があつて意義深いものになしようと努力し、一度出席した人はまた出席したくなり、そしていつも出席するようにと努力していることを私は知っています。

扶助協会の訪問教師は申し上げるまでもなく、訪問する人に出席するよう励まします。そして会員は全部自分の個人的な友人にも手を差しのべて出席するようになれます。

教会の登録は正式には神権者が神から与えられたつとめであり主は教会の組織の時にあたりそのように意図されまし

た。

主が予言者ジョセフ・スミスに教会回復の時を教えた同じ啓示の中でメルケデゼク神権の召しは他の責任者にともない「教会を守護し」（教義と聖約二十章四二節）であります。そしてまた祭司の義務は………また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもひそかにも祈をなし、またすべての家庭の務めにいそしむように勧め」（教義と聖約二十章四六～七節）「教師の義務は常に教会員を守護し彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。また教会員のしばしば集会することをはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」（教義と聖約二十章五三・五五節）であります。

このようなことは、教会員を聖式や神権会または神殿に行くことやその他の神権の働きや補助組織に行くようにするのと同じように扶助協会も含み婦人たちが扶助協会に行くように努める責任があります。

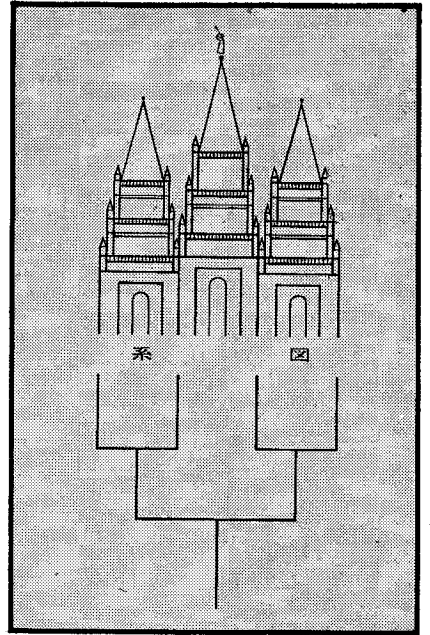
神権ホームテーチングは教義と聖約

第二十章に挙げてある神権者の義務を果すにあつて、その一部分としての教会の正式なプログラムです。ホームテーチングは教会のある特定な機能、家庭で福音を教えるとか、宣教師活動とか、系図や教会の福祉やまたは補助組織に限定されたものではありません。むしろその義務は、これらのプログラムや活動を支持し励まし、動機を与え、そして教会員に靈

示があつた時に適切な動機づけをするこ
とが出来ます。

(山田五郎訳)

ホームテーチングは監督の管理の下に二人一組の神権者が各家庭に割当てられます。扶助協会の助けに関する限り全体の家庭内に関する深い知識・正式な神権の地位、励まし、チャレンジそして全ての見込みある人を登録するようにし更に全ての人が扶助協会に出席するようにつとめることです。このようなことは神権指導者は監督に適切なチャレンジと指



第二回ハワイ神殿 訪問者のために

一九六七年、牧羊者を迎えるこの新年に主の宮を訪ねられる兄弟姉妹のみなさまに心からおめでとうと申し上げます。

一九六七年の新春を迎え、いよいよ第二回ハワイ神殿訪問の期日も目前に迫って参りました。訪問予定の兄弟姉妹の皆さんは高鳴る胸をおさえつつ着々と準備されておられると思いますが、出発が六月に予定されておりますので系図及び家族の記録(日英各二通)は一月中旬に、遅くとも二月中旬迄には本部宛到着するように御送付下さるようお願い致します。系図協会でシートのプロセスに少くとも三ヶ月を要しますので、系図協会の方から

ハワイ神殿の方へ送付する日数も入れますと三ヶ月半、従って二月中にはどうしても系図協会に到着せねばならず従って伝道本部発送期限は二月二十日頃となります。

提出がそれ以後になりますと切角ハワイの神殿まで行っても御自分で自身の御先祖に代って儀式を受けられなくなりから、みすみす素晴らしい機会を失ってしまうこととなります。どうぞ一人もそのような人のないように期限前早目に提出して下さい。

次に今回訪問予定者は、できるだけ第一回訪問者の持っています資料(フアイル)を見せてもらって心身共に準備しておかれるようにおすすぬ致します。前日曜学校系図クラスのテキスト、シオン山の救手たち及び家族の昇栄をもよく読んでもおかれれば更に効果的だと思えます。もう半年足らずですからアット言う間に過ぎて行きます。

身も心も頭もできるだけ準備して、千載一遇のチャンスに百パーセントの効果をおあげ素晴らしい証を持って帰られるように心からお祈り致しております。

ハワイ神殿に就て

一、歴史的背景

ハワイに神殿を建てることは一八五〇年、ジョージ・O・キヤーン、ジョセフ・F・スミスその他多くの宣教師たちが福音を宣べ伝え始めてから、多くの忠実なポリネシア聖徒たちの夢でありました。

この土地の聖徒たちはジョージ・O・キヤーンの予言が実現する日即ち、この遠く離れた島に神殿が建てられる日を待ち望んでおりました。その成就是、一九一五年六月一日にジョセフ・F・スミス大管長及び一部の人がハワイ諸島の北方の一つオアフ島のライエ地域を献納した時に、始められたのであります。

ハワイの神殿は一八六五年にフランシス・A・ハーモンド長老によって末日聖徒イエス・キリスト教会のために購入されたホルルの北方約三十二哩の地点にある六千五百エーカーの、ライエの耕地。として知られている処にあります。

そしてその時からその一部は甘蔗畑として使用されたハワイ諸島の聖徒たちの集合する場所でもありました。神殿の場所は、やや高台或は太平洋まで、見晴らしのきく処に在ります。

建物は永久的な鉄筋コンクリート建てであります。それはギリシャの十字架の形に建てられたもので東西、百二十呎、南北七十八呎であります。建物の中央、神殿の本体(尖塔は無い)の高さは五十呎であり、実際の費用は二十五万六千弗であります。

樹木と灌木と草花がセメントの壁に配置され、三つの長方形のプール、テラスがゆるやかに太平洋の砂浜に向けて降下し一つの大きな円形プールが砂浜街道の真上にあつて神殿は最高の美観を呈しております。

それはできる限り全諸島に住む内地人の労働と熟練によって建てられたものがありますが、教会自体がその出費を担当し、その多くが甘蔗耕作から支払われたのであります。この神殿はヒーバー・J・グラント大管長によって一九一九年十一月二十七日木曜日、感謝祭の日に献堂されました。

二、献堂式の時のお話

(1) アーノルド・B・バンガーター
愛する兄弟姉妹の皆さん

本日私は皆さんの前に立って特に謙遜さを覚えます。けれども私はこの神殿の献堂式に参加できましたことを心から天父に感謝致します。私は今、先日読んだ私の祝福師の祝福の言葉を思出します。それは既に、ずっと以前に亡くなられた祝福師によって私に与えられたものであります。それが彼の言葉はまだ生きております。そしてそれは私がまたわずか三才の時に私の頭上に宣言されたものであります。彼は言いました。

あなたは成長した時召されて家を離れ海の島々に伝道するでしょう。そこであなたは多くのニーファイの民の子孫を見るでしょう。そしてそこに在る間に、主の名に建てられる神殿を見るでしょう。

私は主が私に垂れ給うた祝福に感謝します。私は特にへりくだって常に兄弟姉妹の皆さんが私に頼まれることを何でもしてあげたいと願っております。私は主が私たちを祝福し私たちにその聖いみた

まを注ぐようそして私たち一人一人が、平安を得、その祝福にあずかれるようにお祈りします。何となれば私は私たちが偉大な指導者たちに祝福され、もしも私たちが私たちの天父に信頼するならば、私たちは素晴らしい業を完成し、主は私たちを助けて下さるであろうことを知っておりますから。

私たちは教会内に多くの祝福師を持っております。私たちはこの土地にも一人を持っております。私は喜びを以て申し上げます。

私は彼らが私たちの上に宣言する言葉は、主のみたまに感じて語られたものであることを知っております。そしてもしも私たちが神の戒めを守るならそして天父の前に私たち自身を深く保つならばその言葉は実現し私たちは豊かな祝福を受けるであります。私はもうこれ以上何も言うことはありません。神よ私たちを祝福し給わんことを、そして私たちが常に主のみたまによって導かれますようにイエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン。

(2) サムエル・E・ウーレイ

私は今兄弟たち姉妹たちにごう話したのであります。(ウーレイ兄弟は聖徒たちにハワイ語で語り終えた) このライエの地は昔、避難民の市街でありましたが、今や誠に霊的にも肉体的にも避難する市街となったのでありますと、

ウイリヤム・W・クラフは示現で、ヤ

ング大管長がこの地に立って「この地に私たちが私たちの神に神殿を建ててであろう」と彼に告げているのを見たのであります。後にジョージ・Q・キャンノン副管長が福音が回復されて五十年後に、この地を訪ねられた時、彼は私たちに、ライエでもまたホノルルでも、私たちは間もなく生ける者の救いに必要な儀式を執行する家を持つてしよう」と告げました。

このようにして太平洋の海の真中の島に建てられた主の家は、やがて太平洋の西岸に在る海の島、にも私たちの信仰によって建てられるのではないでしょう。か、ジョセフ・フィールディング・スミス長老は日本に多くのイスラエル人がおるから宣教師を派遣するのであると申されました。私たちが忠実に私たちの先祖を探求して、一日も早く主の宮をこの地にも迎えようではありませんか。

伝道部系図アドバイザー

渡部 正雄

北海道地方部

今年は羊年です。昨今の北海道はジンギスカンの子孫がやたらに多く、羊といえばあの鍋を思い出す御仁も多いようです。しかし、羊のイメージは、やはりキリストのイメージと密接な関連をもっているものであり、そういう意味で、われわれモルモンにとっては、今年こそ福音伝道の期待に胸をはずませる年なのです。

二年がかりの地方部センター建築の槌音もようやく鎮まって、主の宮居の完成とともにダッシュする一九六七年であるからこそ、北海道地方部にとっては意義深いとも言えます。この二年間、チエデスター監督夫妻、ラーセン監督夫妻、建築宣教師のみなさま、支部長の方々、そして長老定員会、アロン神権会さらにまた扶助協会の姉妹の皆様、各支部の兄弟姉妹のみなさまに心より感謝の気持ちを述べさせていただきます。私どもは、この偉大な主からの恵みの建物を大いに活用することこそ、主の御旨であるかと信じています。

そこで、北海道地方部では一九六七年度目標として次のことがらを決めました。

- 一、支部組織、地方部組織の充実
- 二、アロン神権組織の充実強化
- 三、伝道の個人的実践
- 四、ホームティーチングの学習と実践

五、補助組織の内容の充実

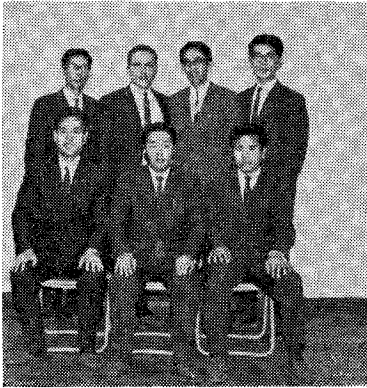
六、指導精神の高揚

七、各会員の福音研究の徹底化

八、音楽プログラムの組織育成

以上です。要するに私どもがモルモンとして自らの成長変革を図るとともに、北海道の多くの人々に福音を述べ伝えるための指針を明らかにし、神様の王国建設を積極的に押し進めて行く目標であると言えます。

私どもは、ひとりひとりの信仰と祈りによりこれらの目標が達成されるよう希望するものであります。一九六七年が迷える羊（ストレイ・シープ）にならないためにも。（北海道地方部長会）



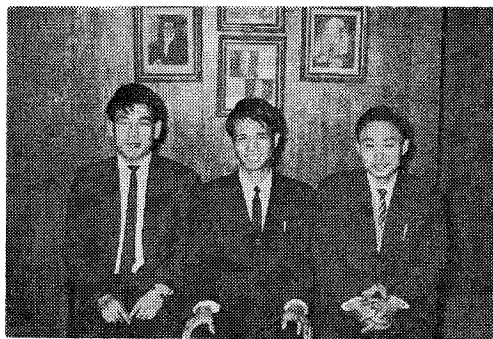
前列右から藤田（第二副） 柳沢（地方部長） 湯沼（第一副）

東中央地方部

大切な責任を与えられていま心から謙尊にかつ喜んで務めをなせるよういつも祈っています。前々任の今井兄弟、前任の田中兄弟は素晴らしいまた私の尊敬する指導者でありましたから、その後を務めるのは本当にはずかしいのですが、勇気を持って前進したいと思っています。現在私に出来ることは伝道部長会を心から支持して従うことであります。今年ホームティーチングプログラムが始まるわけですから、十一月末から段階を追って勉強会を開く計画をたてました。一人一人がこのプログラムのホームティーチャーとなって活躍する日もすぐ近くにきています。力を合せてこのプログラムを成功させたいと思います。また先に始まった長老のパートタイム宣教師活動も今井地方部伝道部長のもとで一段とはげしく活動が行なわれることと思います。さ

いいわ二人のすばらしい副地方部長にめぐまれましたから、心から感謝の気持ちでいっぱいです。力を合せてさらに信仰強く主の業をなすために諸問題を解決していきたく思います。未経験の私ですが精神力と体力と思いをたくして頑張りたいと思います。私はジョセフ・スミスが神の教会を回復した真の予言者であることを証します。また現在の予言者デビッド・O・マッケイが神からの啓示を受けてい

ることも証します。身をすてて奉仕することはいかに我々を幸福にし進歩させるものであるかを心から証したいと思えます。（東中央地方部長 柏倉仁）

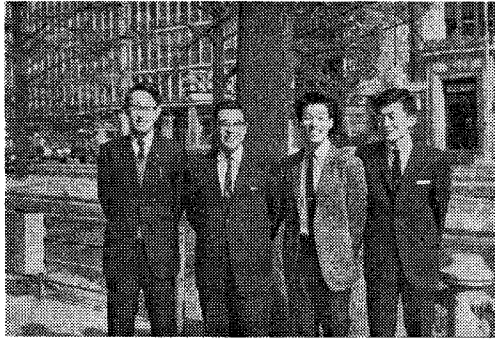


左から 小林（第二副） 柏倉（地方部長） 丸山（第一副）

西中央地方部

新年あけましておめでとうございませす。昨年は当地方部で初めて阿倍野支部がみなさまのご協力をいただいでめでたく献堂式を行いました。また九州には新しく長崎、熊本、北九州の三支部が開設されるはこびとなり、ますます神様の王国が拡がりつつあります。

今年福岡町支部の建築がはじまるうとしており、また新しくホームティーチン



左から二人目 鈴木地方部長

グのプログラムが始まるうとしております。西中央地方部長会としては、すべての教会活動を伝道本部の指示通り忠実に行ないますので、各支部の役員教師も地方部の指示に従ってすべてのプログラムを進行させるようにしてください。そうすることによって教会全体が一つの心となってお一層王国が強大なものになると信じております。

今年是一段と飛躍をしなければならぬ年です。みなさま一人一人が今年一年間よきモルモンとして生活の中心に福音を取入れ、本当のよろこびにみちた生活を送ってください。

みなさまの幸福のために地方部長会一同よき僕としてお手伝いしたいと心から念願しております。

年頭にあたりみなさまの上に神様の福音が豊かにあるように心からお祈りしております。(地方部長会)

沖繩地方部

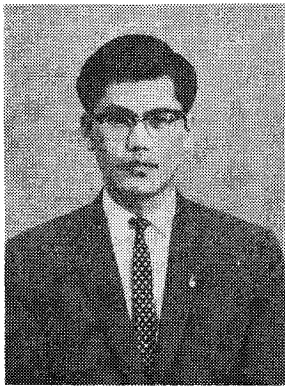
全国の兄弟、姉妹の皆さん、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

一九六六年度は沖繩地方部にとって実に多い年であったかの様に思われなくなりません。その一つに私たちが長い間待ちわびていた那覇支部の教会堂が無事十二使徒評議員のゴールドン・B・ヒンクレー長老の手により献堂されました。その日には沖繩の会員をはじめ多数のアメリカー軍人会員の出席のもとにいとも厳かな中に献堂式が執り行われました。特にヒンクレー長老は「人間の自由を擁護するためにアメリカより派遣された軍人たちが真に安らぎを得る場所となるように、また何千何万という人々がイエスはキリストであると証をもつ機会に与るように」と数々の祝福の言葉を残されました。私たちはかつて多くの貴い命がこの地のために捧げられたことを思うときにまた本当の自由のために多くの血潮が流されたことを考えるときに一日も早くより多くの人々に回復されたこの福音を述べ伝え、救いに与らせねばと思うのであります。沖繩は昔から「守礼の邦」と言われております。然しそれは私

たちが礼拝堂で神の御前に頭をたれてい

るような精神でもって互に生活するときのみ「真の平和」「真の守礼の邦」が実現するのではないのでしょうか。私たちはこの様に神の王国建設のためには、まず良き指導者のもとに良き組織の確立をなし普天間支部をはじめ次々と新しい教会堂を建築し献堂出来るようにと念じております。幸いにしてこの度伝道宣教師の大任を無事果して帰還された屋富祖昭兄弟を地方部長会に迎えることにより、今や沖繩地方部は飛鷲の勢いであります。新年度の伝道部の目標を推進し、数多くの成功をおさめることが出来るよう、またステーク部組織を目指して全会員が一丸となって邁進しなければと意を新にしているものであります。

(沖繩地方部長 長嶺顕正)

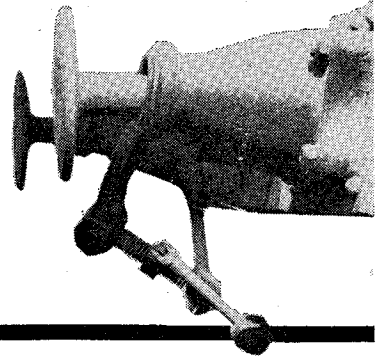


長嶺地方部長

地 方 部 紹 介



アロン神権者用 テキスト



わたしたちの生きた福音

ウエンデル・オー・リッチ著

管理監督会との特別な話し合いによってこのテキストは、一九六六年度、アロン神権祭司のクラスの教科課程に指定されました。

パールへ

愛する妻、献身的な同伴者そして友人あなたにとってイエス・キリストの福音は、常に生きた実際のなものであります。

序文

イエス・キリストの福音を受け入れ、これに信仰を持っているすべての人は、自分自身を大きくし、自己の問題を解決しその努力する目的と意義を見出し、その仕事に幸福を感じ、その生涯を重要な興味あるものとなす力を把握してあります。福音を知ることが受入れる始まりであり、それが真実であると信ずることは本質的であります。けれどもそれが如何なる人の生涯にとっても効果あるものとなるためには、福音が彼の生活の内に入り、彼の存在の一部となっていないければ

なりません。それが単に美しい概念たることにとどまらず、彼自身のものとなるとき、彼の思想を色づけ、彼の行動を導き、彼の理想と目的を靈感し、そこで始めて天上に於ける神性な会議に於て、そのために計画された高い目的が成就されることになるのであります。

一八六〇年に、ジョン・テラーは次のように言いました。

「福音は或生きた、内在している永えの原則である」(ジョン・テラー説教集 七・三六二)

彼のこの声明は本書の題となりました。これに呼応するものはジェームス・イー・タルメージの定義、信仰には必ず行動に表わさずにはおかぬ確信というよいうな意味が含まれているのであります。(信仰簡条の研究一三〇頁)

それでは、イエス・キリストの福音に持つ信仰、それがわたしたち自身の一部となるように推進される、生きた、内在している永えの原則、に持つ信念または確信となるのであります。それが私たちの自由意志の行使によって、生きたものとなり、マッケイ大管長の言葉にあるよ

うに、人の進歩の推進力、となるのであります。

わたしたちは如何に福音を単に、貴重なる所有物と見なしてきたことでしょうか？ わたしたちはそれをクラスで教えあるいは説教として説明し、その力と美しさを指摘し、それを定義して、対立するものから区別し、それを世界の民に説きます。わたしたちは、最大なる教師、最も効果的な説教、最も真実な証、最も強く福音を守るものは、日常のわたしたちの生活にそれを実践することにあることを自覚すべきであります。

生きた内在する永えの原則、としてのイエス・キリストの福音は個人的なものであります。それをほんにと知るには経験せねばなりません。それはわたしたち一人一人にとって個人的な幸福と達成への開かれた門であります。けれどもわたしたちは、その門を歩いて行かねばなりません。それは永遠の成長と進歩への階段であります。わたしたちはそれを登って行かねばなりません。それは、すべての人を神の息子または娘として人格完成するように招待しております

が各人は若しその人格を完成しようとするなら、その力を尽し、信仰を發揮し、問題に堪え、勝利を克ちとらねばなりません。福音のすべての原則、すべての律法、誠命、教えまたは教訓、は人々をより向上させ、大きく広くし、より幸福により効果的な人間としようとしておりません。わたしたちの生きた福音、として充分に自覚して始めて福音は動力としての原則となることを示めそうとするのがこの書の目的であります。

第一章 私たちの生きた福音

福音は神と共に存在してきた、生きた内在する永えの原則であり、ときの限り如何なるところに伸びまた現われようとも常に存在し続けるであります。ジョン・テラー

ジョン・テラー・説教集 七・三六二

わたしたちの生存の目的は幸福であります。もしわたしたちがそれを追い求めるならば、その道は道徳、正直、忠実、神聖、そしてすべての神の誠命を守ることとあります。けれども先ずわたしたちは、すべての誠命を知ることなくして守ることはできません。そしてまたわたしたちは、すでに受けたものを守ることをくしてすべてをまたは今知っているのであることを期待できないのであります。

す。

ジョセフ・スミス 二代目

教会歴史 五・一三四—一三五

「生存の目的と計画」

生命はこの世の原料であります。そして自然界と人間性を支配している永遠に変わらない律法は神の賜であります。あとはわたしたちが学んで、私たち自身のために、幸福をも含めて、かせがねばならないだけあります。

アレキサンダー・メーガンはこのように言いました。

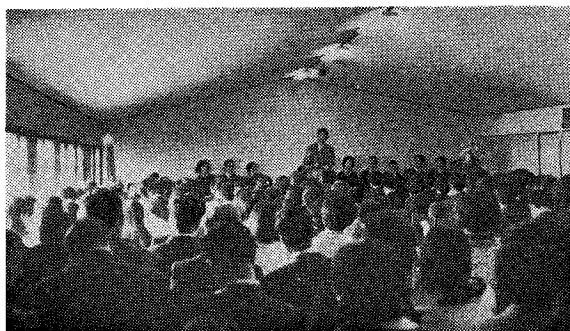
すべての人はその生涯に於て幸福になるべきであります。神の永遠の意図と目的は、人の喜びと幸福にあります。わたしたちはイエス・キリストの福音を学ぶにあたって、このことを知るべきであります。わたしたちが幸福を見出すことは神性な父のみこととあります。そしてこれが人生の目的なのであります。けれども幸福は、たとえ無限の愛と思いやりのある神でも、人がそれを自ら働くことなくして、人に与えることはできないものなのであります。予言者ジョセフ・スミスは父リーハイがその子ヤコブに教えたことを今日のわたしたちの時代に繰返して、人類が現世に在るのは幸福を得んためである、と宣言しました。モルモン経は荒野を旅している試練のときに生れたヤコブの話を告げております。成長するにおよんで彼及び彼の兄弟たちは、神の人間に対する計画のある根本的な真理

を教えられたのであります。彼の父リーハイは、すべてのことはすべてを知っておられるお方の知恵によってなされているのである、と説明しました。彼はそこでヤコブ及びその兄弟たちに永遠の福音の偉大な眼識を与えたのであります。彼は彼らに教えました。アダムが墮落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。(ニーフアイ第二書 二・二五)

すべての真実は正しい人は幸福が人生の生活で織り編まれる完成品であることを知っております。この真理の中に正義のすべての権威があります。すべての神の息子、娘たちは神は彼らが望み且つ受けることのできるすべてのものを与えるであろうという、神の栄光の根本的な訓を学ぶべきであります。

神は常にあなたが学べるだけ教えられることを覚えなさい。若しあなたがあなたの無知を悲しんでも、失望するにおよびません。もっと知識を得られるようにすれば、それはあ

なたに与えられるでしょう。あなたが神を完全に知ることを阻んでいるものは、神が与えようとしないのでなく、あなたの不完全さによるのであります。よりよく、より潔く成長しなさい。そうすれば神の知恵は代価または報賞としてではなくその受入れ能力に応じて自然と入ってくるであります。ここに古い教材があります。何人でも、みこころを行う者はその教義を知るであろう。またここに古いキリストの約束があります。見よ。わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にするであろう。



北海道地方部大会

ワイリッブ・ブルークス

。ウイリッグ。(心から進んでする)

と。エイブル。(能力ある)の二つの言葉は神の救いの計画の金言であります。

限りあるこの生涯は永遠の父がその子供たちの成長と教育のために設けた神性な

学校の教室であります。選択の自由と経験から学ぶ能力はその教室で教えられる

根本的なレッスンであります。ウイリッグとエイブルは知恵と英知に言われると

同様に行動と責任にも、あてはまりません。わたしたちは皆、わたしたち自身の

幸福と達成のために完全な責任を持っております。この責任と平行して行動が必

要になるのです。イエス・キリストの福音に関して静止または休止しているものは

何もありません。あなたはそれを検査してみれば、それが完全に、いつ

も、行動の計画であることを発見するであります。またよい生涯は安易なもので

であるべきでもありません。幸福と達成は、ほとんどの場合、働らきと苦し

い闘いが合理的な目的と霊的な勇気と結合して、もたらされるものであります。

一九四三年、アルバート・イー・ポウエン長老は、ラジオで次のように強調しました。

。霊的な理解と力と識別と自制は無料で得られるものではありません。それは克ちとらねばならないものであります。肉体的な限界を越えて見透すイエス御自身でさえ、自らを捧げ、霊的な最高を極め

た偉大なその伝道に入るに先だって四日間、荒野で闘い、御父の慰めと支持を強く呼び求めたのであります。けれどもその試しに打克った日から彼の生涯はその教えた道徳の積極的な実行でありました。

宗教によって企てられた人生の計画には、心配、悲しみ、苦しみ、非難または

欠乏から解放される約束はありません。すべてこれらを通して、高い目的への

忠節を守って、敗北し落膽してはならないのであります。人はこの物質界に住ん

でいる間に、経験と熟達と浄化と霊的成長を以って、この世に於ても、来世に於

ても更に偉大なるものに彼自身を合せて行くのであります。(アルバート・イー・ポウエン)

アレキサンダー・メーガンはその優秀な著書「幸福な生涯」の中で幸福は真実

な永続する価値と調和した生活をすることによってのみ見出されると主張してお

ります。彼は幸福は宇宙の霊的律法の内に獲得された自覚の内に見出されるとの

エマーソンの声明に賛成して言っております。

幸福は、よい生涯のために、大切なことに向って充分に努力することでありま

す。若しもよく考えられた価値、こわれない標準、充内な目的がなかったら人生

はみじめな目標を失った暗闇となつてしま

まうのであります。不幸は間違つた活動

(必ずしも悪ではない)及び不十分な相互関係からもたらされるのであります。

言いかえれば不幸は内部の不調和からも

たらされ、それはその人格の一部の破た

んとなるのであります。(アレキサンダー・メーガン「幸福

な生涯 六―七頁)

もう一度予言者、ジョセフ・スミス

の声明を見てみましょう。

。わたしたちの生存の目的は幸福であり

ます。若しもわたしたちがそれを追い求めるならば、その道は道徳、正直、忠実

神聖、そしてすべての神の誠命を守ること

とであります。けれども先ずわたしたちは、すべての誠命を知ることなくして守

ることはできません。そしてまたわたしたちは、すでに受けたものを守ることに

くしてすべてをまたは今知っている以上を知ることを期待できないのでありま

す。「幸福と達成の条件」

メーガン博士は同様に次のように指摘しております。わたしたちは皆、幸福



とも幸福は可能性であって、経験として

保証されるものではありません。幸福は

歓喜や悦愜のように勝利の翼に乗って来

るものではありません。それは歩行者の

ように静かに来るものです。それは成長

の結果であります。ここに幸福の根本条

件が述べられてあります。すなわち成長

と行動から、くみとらなければならぬものだからであります。それは真に価値ある生活からもたらされるものであります。それは神性な永遠な真理に由来する価値ある生き方をするとき始めて現れて来るのであります。

された多くの福音の真理があります。これらの声明をその必要な条件と共に見てみましょう。

われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守るによりて救われ得ると信ず。信仰箇条第三条。

イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしたちの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子なのである。」

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。(ヨハネによる福音書八・三一—三二)

神の栄光は英知なり。すなわち光明と真理なり。

光明と真理はかの悪魔を棄つ。

(教義と聖約 九三・三六一—三七)

すべてわれによりて祝福を受けんと願う者は、その祝福を与うるために定められたる律法と条件を創世の前より定められたるままに守らざるべからず。

この新しく且つ永遠の誓約に就いてはこはわが最高完全なる栄光のために定められたるものにして、わが最高完全の栄光を受くる者はこの律法を守らざるべからず。またこれを守るものとす。しからずば、その者の行き止りなるべし。主なる神言う。(教義と聖約三二・五一—六) 見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらずと主なる神言う。

主また言う。わが名によりてなされざる捧物をわれいかで受くべきか

または、わが命せざりしものを汝らの手より受け入るることをせんや。

主は言う。正にわれとわが父が創世の前より汝らに定めたる律法によらずして汝らに命ずることを為さんや。(教義と聖約一三二・八一—一)

これらの完全な引用は、イエス・キリストの福音は永遠の律法の特別な要求と結び付いて人類に与えられていることを示しております。

わたしたちはしばしば、自身の欲するままに律法を解釈し説明しようとしませ。或場合にわたしたちは他の宗派の人たちの生活を見てこの神性な律法を人間が変えたことに気付き、それを指摘します。けれどもわたしたちは、皆自分が、よく福音を自分自身の必要と好みにあうように歪め変えていることに気がつかないでいるのです。

ボイド・ケー・パーカー長老は、ブリガム・ヤング大学の学生たちへのお話の中で、この点を、はっきりと指摘しております。彼はたずねております。

あなたによる福音はどのようなものですか？ それを聖文の内にわたしたちに示された福音と比べたらどうなるでしょうか？ それは完全な福音でしょうか？ それとも、あなたはある本質的なものを取除いてしまっておられるでしょうか？

あなたによる福音の計画は、あなたの救

いに効果的なものとして満足されますか？

わたしはデビッド・オー・マッケイ大管長による福音がどのようなものであるかを知っております。何となればわたしは彼の説教を聞き、読み、彼の心を感じたからであります。わたしはまたジョセフ・フィールデクング・スミスによるまた他の兄弟たちによる福音がどのようなものであるかを知っております。何となればわたしは彼らがそれを声明したので聞いたからであります。わたしはブリガム・ヤングの福音が本質的にどのようなものであるか知っております。何となれば私は彼に就て多く読んだからであります。そしてわたしは

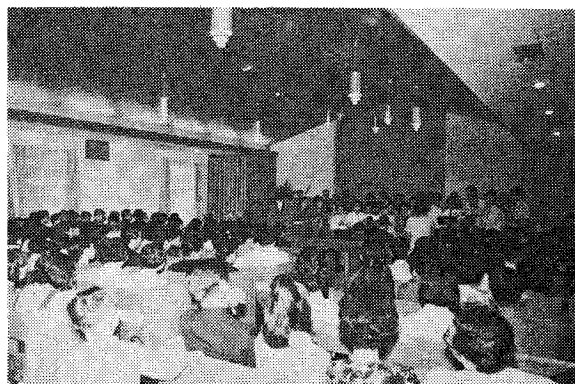
それらが完全で、啓示された言葉に調節されたものであることを発見しました。

けれども最も大きな発見であり、わたしを謙遜にし助けた一つの経験はある日、わたしの福音はどうであるかと考えて見たこととす。わたしはあるものを省いていたことを発見しました。わたしは勝手に取捨選択していたことに於て罪を犯し

ていました。わたしは自分にとって最も必要でありながら好きでなかったものを削っていたのでした。わたしは自身身に、あなたによる福音はどうですか？ とたずねて見るまではこれを発見することができなかったのであります。わたしは皆さんも同様にされるように提案します。(ボイド・ケー・パーカー

ブリガム・ヤング大学 一九六二年三月二十一日)

福音は人の道であります。それは任意の道ではなく特定の生きて行く道であります。その原則は、誰でもそれを受入れ愛する者によって創造的に用いられるも



西中央地方部大会

のであります。けれどもこれらの原則は個人の意のままに変えられるものでもなく、まして個人的な欲望及び快楽に合せつくりられるものではありません。イエスは言いました。

そしてこの御国の福音は、すべての民に對してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。(マタイによる福音書二四・一四)

この声明を引用してヒュー・ビー・ブラウン副管長は次のように宣言しております。

この御国の福音、彼が、この福音、と言つてただ、福音、または、ある福音、と言わなかつたことは大切であります。使徒パウロはいつもはっきりと熱烈に言いました。

しかし、たとえわたしたちであらうと、天からの御使であらうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろむべきである。(ガラチヤ人への手紙一・八)

わたしたちはへりくだつて、けれども恐れることなく、回復されたイエス・キリストの福音は、神に靈感された生きる道であり、救いの計画であると申します。それはイエスが語つた王国の福音であります。それはときの絶頂の時代の模形と同様に永遠不変の完全な福音であり、救いを得させる神の力であり、ヨハ

ネによれば、この末日にあらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために天使がたずさえてきた永遠の福音であります。(ヒュー・ビー・ブラウン 一九五八年四月大会)

ハロド・ビー・リー長老も同様に福音の計画を定義することの必要を感じ、主の言葉を参照しております。

命にいたる門は狭く、その道は細い。そしてそれを見いだす者が少ない。(マタイによる福音書七・一四)

同様にシロアムの池で盲人を癒した後で教えられました。

羊の囲いにはいるのに、門からでなくほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である。(ヨハネによる福音書一〇・一)

リー兄弟は言いました。

それでは福音とは何でしょうか？ しばしばわたしは兄弟たちがわたしたちが望まないような言い方を口にされるのを耳にします。すなわち福音は生きる道である、それは一つの生きる道(A way of life)ではなく永遠の生命への道であり救いの科学であります。(ハロド・ビー・リー 一九五九年四月大会)

これに関して聖文そのものの声明は、はっきりしております。イエスは言われました。

だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。(ヨハネによる福音書一四・六)

パウロは救主の使命に就て言いました。

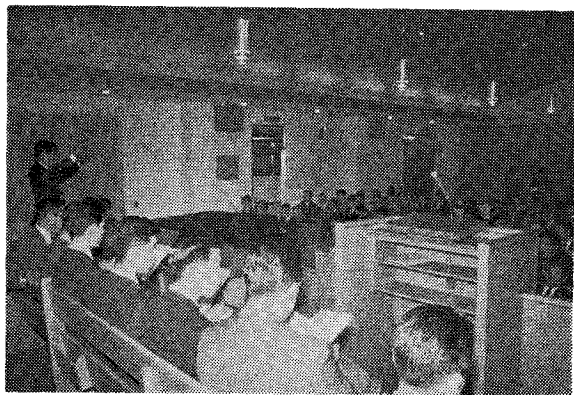
この人による以外に救はない。わたしを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。(使徒行伝四・一二)

なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。(コリント人への手紙三・一一)

教会の指導者及び聖文の教えは、はっきりと(the way of life)この生きる道であると説いております。

「永遠の福音」

福音は生活の科学であり芸術であります。それは生活の科学と呼ぶことができます。何となれば科学は知る状態または行為に関するものであるからであります。そして知識と知恵の重要さは福音の土台だからであります。福音の教えは永



遠の宇宙の神の属性として受け継がれる真理と関係に基づいております。福音は神の一人子、神聖な教師を通じて潔められた真理であります。

イエス・キリストの福音はまた生活の芸術でもあります。芸術は知識の創造的また実利的利用の熟練さに適用されません。実際にはその最も本質的なものは創造的なものであります。芸術家及び職人の両者から美と実用がもたらされます。天然資源と畜積された知識、実体と理論は、うまく結合して、人生のよいものをつくりだすのであります。人がそのまわりにある天然資源からつくりだせるもの

に限りはありません。

自分自身をクリスチャンと呼んでいる。イエスに従う人たちは創造的で豊かな生活のため、その資源を積極的に利用する芸術家や職人と同様でなければなりません。

知識と熟練は如何に創造的知識と、熟練であっても、それは単に目的及び計画の道具に過ぎません。このことは神性なる御父の計画でありその生きて行く道である福音に就ても同様で真実であります。それは幸福と達成と自己完成、言いかえれば神の息子、娘たちである人類に豊かな生涯をもたらすように計画されたものであります。福音に在って人生は脈打ち

目的があり有意義なものとなるのであります。団体的、社会的、及び物質的それぞれの価値は極めて大切なものであります。けれどもすべての価値は霊的なものに導かれ、霊的なものの内に、その目的と意義を有しているのであります。

生活の科学は普遍的な真理と相互関係に基かねばなりません。これはイエス・キリストの福音に対する、わたしたちの信念に全く一致するものであります。わたしたちは福音は、その根源をわたしたちの父なる神の神性な知識と知恵に有していることを固く信ずるものであります。福音に含まれる原則は、単に第一原則だけでなく、すべての今迄に現われたまた将来現れるであろう原則を含み、その性質に於て自主永続するものであります。それらは永遠の昔から存在し永遠

に存続するものであります。何となればそれらは絶体的本質的なものであり、つぐられない真理で、始めなく終りなく、昨日も今日も永遠に変わることがないからであります。

その編集の時と場所と方法に就て、若しそのようなことが起つたものと想像するならば、それが独立した法として存在するのための立法手続き、整備、及び編制は神の意中にあり人間とこの世との救いと昇栄に適用されるもので人間のたずねられる領分外であります。(オルソン・エフ・ホイットニー)

福音の教えは終ることのない力を託しています。それらは生きた原則、永遠の愛の父の無限の知恵に表わされるのであります。人は神の僕以上のものであり更に友人以上のもので実に神の子供であります。人は僕であり友人であるに相違ありませんが神に親に持つ息子、娘たちとして祝福と責任を相続しているのであります。若し正しく受けるなら御父の持てるすべては彼らに託されるのであります。

聖文の目的はわたしたちの父なる神と私たちとの関係、御子救主との関係また永遠の計画と私たち一人一人の目的と、生命との関係を設定しようとするものであります。

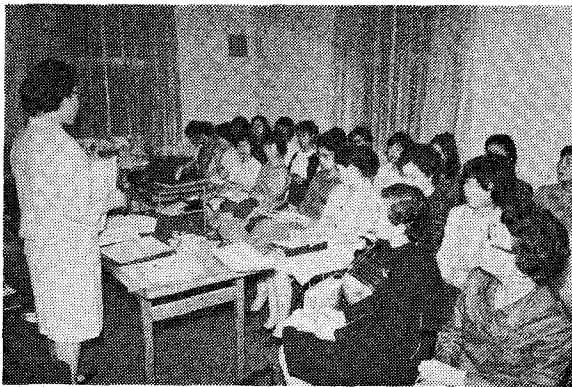
これらの計画と目的は何でしようか？愛の父はその子供たちのためにどうされ

ようとしているのですか？ どの父親でも子供たちのために何を望むでしょうか？ 平和と健康と幸福、勉学と進歩と発見、永遠の生命そして愛する者たちとの永遠の交りであり得ましようか？ 天上に於てもこれ以下であり得ましようか？ 自分のかたちに人を創造された。(創世記一・二七) 御父はこの愛する者たちにそれ以下のことを計画し、目的とされるでしようか？ 神は御自分の業と栄光を、人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。(モーセの著一・三九)と宣言しました。これが終局的な目的であり神が与えたところの福音のすべての目的であります。

これは人の生涯を永久に意義あるものとし、これは暗中模索している者を励まし信仰を与えるところの確認であります。これはわたしたちが世の中を生きて行くときのすべての苦しみ、すべての努力を価値あるものとし、この生涯は学ぶための生涯であることを学び、御父は私たちを試す期間としてこの世の送り道を送るためではな

く、私たちの中にある光で自らを導き、もし導かれれば自由と信仰とそして誠命と呼んでいる簡単な規則を守って達し得る最高の能力に達するのであります。(リチャード・エル・エヴァンズ)

一九五九年十月大会
人生の意義と目的は、その性質に於て永遠不変の律法及び原則に基いていることを自覚することは大切であります。そのような根底なくして永遠の進歩の計画はあり得ません。聖文はイエス・キリストの福音を軽卒に、永遠の福音と参照しているではありません。それらは、その律法と教訓の永遠性を、はっきりと宣



西中央地方部大会扶助協会

言っているのであります。

福音は神から発している原則でありますから、その創造主と同様に、昨日も今日も永遠に同じ、永遠不変のものであります。神は明けの星が、相共に喜び歌う前に、あるいは人類の救いのためにこの世界が存在する前に、それを定めたのであります。このことは神の心の内に在りそれが展開されるときに人を深め、高め救う、永遠不変の、それることのない計画として現れ、その目的は、その現れの程度に応じたある不変の救いの方法によって達成されるのであります。

福音はある生きた内在している永遠の原則であります。言うなれば新約聖書に書かれてあるものは国の地図のようなものであります。けれども福音そのものは国であります。アメリカ合衆国の地図を持つている人がアメリカ合衆国を所有していると思つたら馬鹿けております。このように人は新約聖書及び旧約聖書を持つことはできませんがそれで福音を持つた主張できません。

けれども福音は新旧両聖書に含まれていると言われるかも知れませんがそうでありません。モルモン経にもまたわたしたちが受けている啓示にも含まれておりません。それらは単なる記録であり、歴史、誠命などであります。福音は生きた内在している永遠不変の原則で神と共に実在し、時の続く限り、それが何処に展開され、現れようと常に存在するの

であります。(ジョン・テラー説教集)

これはイエス・キリストの福音であります。それは、生きた内在している永遠不変の原則であります。ジョセフ・エフ・スミス大管長が説明しているように、……福音は単なるよいおとずれ以上のものであります。何となればそれは永遠の真理のすべての原則を含んでいるからであります。この宇宙の何処にもイエス・キリストの福音に含まれていないような根本原則または真理はありません。その諸原則は宇宙の本質に相続されており、それが積極的な成長と達成を

目指す行為の計画に律法化される時に永遠の進歩の神性な計画となります。限りあるこの世に住む息子、娘たちに対する神性な愛の父の目的は、この永遠の律法の模範の内に含まれ計画されます。そこで福音の諸原則は永遠の真理に形成されるのであります。ただ人がそれらを自分自身の目的に歪めると、そのりんかくを自身の貪欲さ、わがままの内に、渾然としてしまうので、それらは心の中にもうろうとなり、ある場合には失われ、忘れられてしまうのであります。

真理だけが、永遠の真理のみが事実と相互関係を率直に、はっきりと声明しているのです。それ自身は善でも悪でもありません。その用い方によって善くも悪くもなるのです。知識は力だとしてよく言われますが、けれどもその知識が建設的に

使われた時にのみ正しい力となることができるのであります。

福音は積極的な行為の計画であります。神は人間の福祉と進歩のために根本的な永遠の真理と宇宙の律法から福音を形成したのであります。これが福音はこの生きる道 (the way of life) であ

つて一つの生きる道 (a way of life) ではないわけであり、それは相続された律法、永遠の原則を、生きて動く現実生活にもたらしたものであります。それを通じて人々は、神の息子、娘として完全姿に成長することができるのであります。

神の子の福音に結びついていられる原則で永遠性を持たないものはなく永続しないものはありません。そしてわたしたちは神と聖い天使と多くの人々の前で罰の苦しみを受けることなくして正しい原則をふみにじることはできないのであります。福音の原則は永遠であります。それらは世の創られる前から或永遠の律法に従って、全能者により構成されその根源があるのであります。ですから福音は永遠の福



北海道地方部大会

音と呼ばれるのです。(ジョン・テラー説教集)
「生きた福音は生活するための福音である」

地球はいかに偉大で素晴らしくても創造の目的ではありません。主は自ら……わが栄光は人に不死不滅と永遠の生命とをもたらしなすなり。(モーセの著一・三九)と云っておられます。そして人は神性な賜の自由意志を行使するときに、義務が伴うこと即ちこの神性な目的を達成するに当って創造者を助ける責任のあることを感ずべきであります。
人生の真の目的は単に生存するだけでなく快樂でも名譽でも富でもありません。

ん。人生の真の目的は神の靈感の導きの下に各人の努力によって人間性を完成するにあります。

真の人生はわたしたちの内にある最上のものに応ずることでありませう。ただ食欲、快樂、誇り、富をつくることに生きて、善意、親切、清潔、愛、詩、音楽、星、神そして永遠の希望に生きない者は真に生きる喜びを知らぬ者でありませう。(デビッド・オー・マツケイ大管長 一九六三年十月大会)

イエス・キリストの福音は単に所有すべきものでしょうか。それとも生活すべきものでしょうか？ これはあなたは福音を信じますかそれとも、福音に信仰を持っていきますかとたずねることになりません。信仰は信仰でありませうから福音に信仰を持った者は福音を實踐しなければなりません。福音を持つだけで用いないことは信念を表現するだけで信仰の積極的な原則ではありません。

あまりにもしばしば福音は単に宝物として取扱われ個人的な生きる道と見なされていませんでした。それを論じまたは教える人はあまりにも非個人的な方法で提供しました。彼ら教える人は講義で画廊の絵画を見せたり、蒐集した中から傑作を陳列したりするようあります。その美しさは討論され、その機構は解剖され、その真理は擁護され、それを所有しませんが観賞のみで実生活には入りませんでした。福音とその真理を信じ受入れ所有

することすべては必要であります。が、それだけでは不十分です。福音は単に信じまたは受入れまたは所有するだけのために与えられたものではなく、実践するために与えられたものであります。

ベンジャミン王はニーフアイの民に最後の大いなる教訓を与えた時に彼らの信念を生きた力ある信仰にしなさいと訴えました。王は若しお前たちが神の善意を知り信仰を持ち続けるならば、この信念を生きたものとすると言いました。

神を信ぜよ。神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることを信ぜよ。また人間は主の悟りたもうことを、ことごとくは悟れないことを信ぜよ。

重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくてはならないことを信じ、神がお前々ちを赦したもうように真必から祈れ。もしもこれらをみな信するならば謹んで実行せよ。(モーサヤ書四・九一—一〇)

もしもこれらをみな信するならば謹んで実行せよ。これこそ世紀を通じて予言者や指導者たちの主要な勧告であります。彼らが言い、今日わたしたちが理解せねばならないことは、福音はわたしたちの生活に個人的な意味を持たねばならないということでありませう。人は福音のすべての事実を知ってしかもその事実を反した生活をする事ができるのであります。

生徒は、正直は最上の政策である、と学んでからも試験でカンニングをするかも知れないのです。知る、ことは必ずしもなすことを必要としませぬ。知識が生ける人に結びついた時、静止している信念が動的な信仰となった時知識は行動となって現れ、福音は実生活の中におりこまれるのであります。苦闘することは自分自身のものでなければなりません。誰も他人のために行為を学んでやることはできません。人は知恵または学問または人格の美しさを賜物または相続として獲得することはできません。或人の父親または遠い先祖が或一つのまたはそれ以上の分野に於て、非常な努力を以て傑出した業績をおさめた

かも知れません。けれどもその人はどの先祖またはすべての先祖たちの業績にも預ることはできないのであります。ここでもまたはどこに於ても、人は自身の努力によって自分自身を完成せねばならないのであります。そして自分自身の働らきによってもたらした業績以上に上ることはできないのであります。ここに靈感さ

れた子供が秀でた父と同様に傑出できる唯一の道があります。それは父が彼自身を高めたと同様の行程を以て、障害を克服し、落胆せずに徳操を培い、たゆまず目標に向って進み、自ら自己完成することでありませう。その他に道はないのであります。

同様の律法が宗教的または靈的生活をも支配しておるのであります。わたしたちは自ら苦勞して働らかずに美しいまたは完全な生涯を打建て或は組立てれると保証されないのであります。そしてすべての宗教の目標は生涯の完成であります。完成へ導く処の実行を通じてのみそれは達成されるのであります。(アルバ



福音が実践するためにつくられたものであるなら、各人は自分自身で実践し生活することによって、それを見また感じなければなりません。事実と情報だけでは不十分であります。それらが効果的なものとなるには若いアルマが発見したように先ずそれらが個人的な意義を持ち、その人の達成に導く洞察力に発展せねばなりません。

……人はみな神によりて生れ、その墜落したる肉欲の有様より義しき有様に移り、神に贖われて神の息子または神の娘とならざるべからず。

かくて人は新なる者となる。しからざれば決して神の王国に住むことを得ず、(モーサヤ書二七・二五―二七)

学問、成長、進歩、達成、及び救いさえも学ぶ人の内に何か生じた時のみまた事実、知識及び情報が個人的に意義ある力となって人に入ってきた時ののみ、もたらされるものであります。そこで、生きた福音、は内に燃えるような個人的な経験、生命の機能、永続する永遠の価値の達成へと挑むのであります。

知覚は個人的また私的なものであります。福音は各個人の生活の中に探究された時に個人的な意義を持つのであります。そしてそれが隣人との交際、意志の疏通に生きた要素となった時に極めて重

要なものとなるのであります。

。学ぶことは個人的な意味の探究または発見である、と言われてきました。若しこれが真理であるとするならイエス・キリストの福音を学ぶことはその福音の中の個人的な意義の探究及び発見に相違ありません。

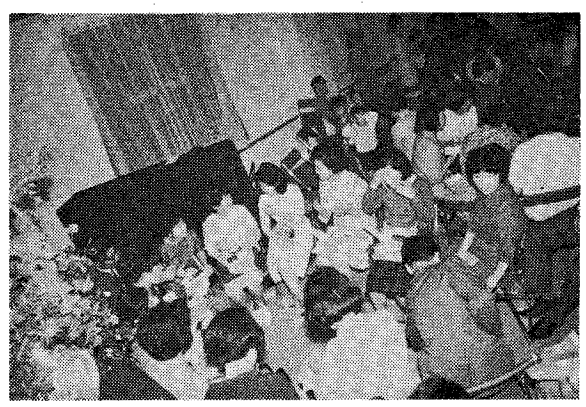
イエス・キリストの福音を、生きた福音としてはっきり理解し、その変貌させる力が見るためには、わたしたちは美しい概念から動力的な生きた現実的なものに変えている要素に注目せねばなりません。それは行動の要素であります。福音の原則は永遠なものであります。福音の計画は神の恵みによって御子イエス・キリストを通じて惜しみなく人に与えられた賜であります。けれども福音の光の内での人の完全な救いはその人自身の積極的な行いが必要とするのであります。各人が福音の光の内での自分の救いのために働らかなければならないのであります。キリストの言葉に、

。わたしにむかって「主よ、主よ」と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけがはいるのである。(マタイによる福音書七・二一)

わたしたちはしばしば知識がわたしたちの探求や努力の究極の目的であるかのようにふるまい、知らされたらそれで充分であるように行動します。わたしたち

は見て来ましたように知識だけでは力ではないのであります。知識が行動化されて力となるのであります。イエス・キリストの使命は人に福音を教えるのではなくて、福音を実践するように教えることであり、神の王国は福音を知っている人から構成されているのではなく福音を知り福音を実践する人から成っているのであります。

信仰は福音の第一原則として与えられました。けれども信仰は静止の原則ではありません。静止の状態は信念であり、けれども信仰自体は活動的なものであります。それは人を行動させる力を持っており、今日の文学上、最も意義深い信仰の定義は、ジェームス・イー・タルメイ博士によって、なされたものであります。彼は次のように説明しております。信仰は必ず働きを表わさずにおかぬような信頼と確信である。(信仰簡条の研究一三〇頁)福音のすべての大きな目標は人々の生活の内に置いて行動され達成されるのであります。これは働らき、努め、犠牲することを意味しま



す。行動はイエスによって説明されたように知識の証明になります。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出したものかわかるであろう。(ヨハネによる福音書七・一七)

福音の計画の内に於ける行為と成長が極めて大切なので、またその特権と祝福は常に働らいて得なければならぬものなので、それは、完成の永遠の行程、とも言われます。

ここにすべての人は各々そのなした行いに従って報われるという神性な代償の律法があります。自分で播いた種は自

分で刈り取るのです。人生の悲劇は、非常に多くの者がキリストの教えを信ずると公言しながら実践することを怠ることであります。しかも福音の何れを見てもはつきりと実行することの必要をうながしていることが感じられるのであります。イエスのどんな教えでも目を向ける時に、それらが実行の原則として述べられてあることに気がつくでしょう。もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。(マタイによる福音書五・四一)

だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり予言者である。(マタイによる福音書七・一二)

「隣り人を愛し、敵を憎め」と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。(マタイによる福音書五・四三―四四)

求めよ、そうすれば、与えられるであろう。探せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう。

すべて求める者は得、探す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。(マタイによる福音書七・七一―七三)

聖文と今日の指導者たちの教訓には、

この動力的な含みが充たされております。デビッド・オー・マッケイ大管長は、信ずるところを行うことは、キリストに従うと公言する、すべての者にとって必須であると宣言しました。わたしたちが今日必要としているところのものは、

実用的な福音であります。敵をも注目させ、尊敬させるところの尊い行為を以て説かれた福音であります。キリストの生涯は真の人間の生涯であります。キリストの福音はそれに到達する道を示しております。教会はそれを進歩させるのに理想的な手段であります。けれども真に道徳的な人格は、ただその人格ばかりでなく幸福と永遠の生命をもたらす道徳を各人の日常生活で実行することによってのみ達成されるのであります。(デッド・オー・マッケイ 一九六〇年九月インストラクター)

何年前かにヒーバー・ジェー・グラント大管長も同じように証言しました。

わたしたちはわたしたちのなした善い行だけの祝福を神から与えられることに早く気がつく程、わたしたちのためになるのであります。神の御業の神性に対する、どれ程の知識、靈感、証もわたしたちがその知識を実際に日常生活に実施しなかつたら、わたしたちのためにならないのであります。いかなる人でもその人及び友人に役に立つのは彼の持っている知識の量ではなくて、その知識の実用で

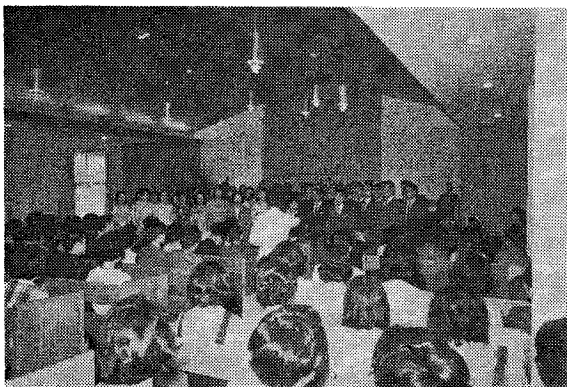
あります。(ヒーバー・ジェー・グラント インブル・ヴメント・エーラ一九四二年三月)

行為、成長、達成 これらはイエス・キリストの福音を、生きた福音、とする諸原則であります。イエスの働らぎと使命は人々に単なる教えを与えようとしただけではありません。わたしがきたのは羊に命を得させ、豊かに得させるためである。(ヨハネによる福音書一〇・一〇)

第二章 責任ある自由意志 人の権威

あらゆる真理は、神の置きたまひし範囲に於て独立し、独りにて働くなり。すべての英智もまた然り。然らざれば、存在なるものは無し。

見よ、ここに人の自由意志あり。しかして、ここに人の罪を受くる所以あり。何となれば太初より在りしところのものは人々に明白なり。然るに、人々はその光明を受け入れざれ



ばなり。(教義と聖約九三・三〇―三二) 見よ、われ汝らにすべてのことを悉く命ずるは至当ならず。そはすべてのこと己むを得ざればなきざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くることなし。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりてなし、多くの正しきことをなし遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れのことを自らなす者なればなり。(教義と聖約五八・二六―二八)

第二章 責任ある自由意志 人の權威

生命に次いで人が神から受けた最大の賜は生活を治める權利であります。選択の自由は、この地上に於けるいかなる所有物よりも貴重なものであります。それは人の靈の持つ特性であります。それはすべて通常の状態にある人に与えられた神性な賜であります。貧しく生れようとは生れながらに遺産に縛られようとも各人にとって最も尊い賜は、人が生れながらにして奪はれることのない賜自由意志であります。

自由意志は人を進歩させる推進力であり、人が神のようになることが神の目的であります。人をしてそれを達成させるためには、創造者にとって先ず人を自由にする必要があるものであります。(デビッド・オー・マッケイ大管長 一九五〇年四月大会)

「自由意志は永遠で欠くことのできないもの」

福音の含んでいる諸原則は福音をそれ自身と同様に永遠であります。自由意志は福音の機構に根本的に必要なものであります。これなくしては、存在なるものは無い」と主は宣言しております。(教義と聖約九三・三〇―三二)それは人を進歩させる推進力であります。自由意志なくしては私たちの個人的な存在の意味は

あり得ません。そこには成長も進歩も、達成も、なくなるでしょう。それはイエス・キリストの福音の土台であります。

意志の自由と、それに伴う責任はイエスの教えの根本的なものであります。彼の伝道期間中を通じて、彼は個人の価値を強調し、神の御業と栄光を現代の啓示に表明されているように、人に不死不滅と永遠の生命をもたらすなり」と証言されました。自由意志の神性な賜を通じてのみ、そのような進歩は可能なのであります。(デビッド・オー・マッケイ大管長 一九五〇年四月大会)

選択の自由なくして人間は機械的な存在であり生けるロボットに過ぎないのであります。自由意志なくして人は善を求めようと選ぶことができなないので人を、よい方へ氣を向ける目的がなくなり、人はその罪をとがめられることもできずまた当然悔改めるように言われることも出来ません。何となれば自分で道を変え、することもまた、よい道に向うこともできなからであります。選択の權利なくして人は人をつくられたままで、意志もなく、何をなそうと責任をとれないのであります。このことは人に罪も義もないことを意味します。何となれば自分自身の生活を変え、導き、命ずる力を欠いていたからであります。自由意志なくしては、人のための神の目的は達成されず、無に帰するでありましょう。選択の力と機会のみ

必要なことは、リーハイによって息子ヤコブに説明されました。

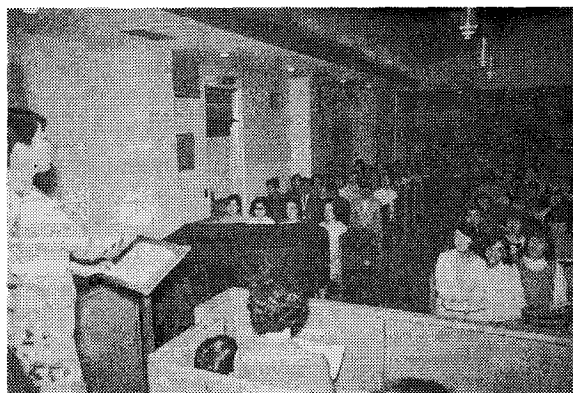
それは、すべての物事には必ずその反対のものがないければならぬからである。

荒野に於て初めて生れた私の子よ、もしも物事にその反対のものがなければ、正義も不正も聖潔も隣むべき様も善も悪も生ずることができぬ。それであるからすべての物事はみな

合して一つとならなければならぬ。ゆえに仮に万物がごとごとく一体とならば、それは生死なく滅不滅なく幸不幸なく知覚の有無もないままで一切の差別を失ってあたかも死のような有様で存続しなければならぬ。

こう言うわけで、万物は無用に造られたと言わなければならないし、またそれゆえに創造の結果は目的のないものであったであろう。従って、これは神の知恵とその永遠の目的とまた神の能力と慈悲と正義とを亡ぼしてしまうと言わなければならない。(ニーフアイ第二書二・一一―一二)

選択と、どちらか選択されるといふ両



者があることは成長と進歩の神の計画に絶体的に必要なものであり、神によってイエス・キリストの福音の中に設けられたのであります。

さて息子らよ、私はこれらのことをお前たちの利益と學問とになるように話す。それは現に一人の神がましまして、天も地もすべてのものを造り、天地の中の万物を作用するものと作用せられるものと造りたもうたからである。

そして、神がわれわれの最初の両親と野の獣と空の鳥、つまりあらゆる造られるものをことごとく造りたもうてから、人間の行末にかかわる永遠のみこころを成就したもうためには、物事に必ずその

反対がなくてはならなかった。すなわち禁断の実に對しては生命の木があつてこれは甘くかれは苦かつた。

それであるから、主なる神は随意に行う自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誣われなければ、随意に選ぶ行ふことはできないのである。(ニーフアイ第二書二・一四一—一六)

アダムの墮落と人類がこの現実の世界へ来たことはそれぞれ神の御計画の一部であります。人間は善悪の相違を学ぶべくこの世に来て、その知識を通じて正義を選ぶに必要な靈的成熟を得るのであります。福音の律法は永遠の原則に基づいていますから正しい選択は永遠の価値をもたらずからであります。個人としてわたしたちは皆、誠命によるだけでなくどちらかを選んで自分の生涯のものとせねばならないので、これらの原則に調和するように学ばなければならぬのであります。このことをリーハイが彼の子どもたちに指摘したことは、神性な計画に従つてなされたことでした。

しかしながらごらん、万物は万物を知る者の全智に由つて成つた。アダムが墮落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。

そして時が満ちると、人間の始祖の墮落の結果から人間を贖うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の墮落

の結果から贖われるから、すでに永久に自由となつて善悪を弁え、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従つて律法が定める罰を受けるほかには何事も自分の心のままに行ひほから強いられることはない。(ニーフアイ第二書二・二四—二六)

デビッド・オー・マッケイ大管長は自由意志は人の靈の持つ特性であり、正常の狀態にあるすべての人への神性な賜である。と宣言しました。この自由意志の最も重要なことは聖文のどこにでも見られます。これは聖文が前世のできごと、ほんの少しではあるが、就てわたしたちに与えた中心課題であります。それは神性な父によるわたしたちの自主権の擁護を感動的な表現を以て堂々と告げております。それが神聖な記録にのせられてあるそのままを讀んで見ましよう。

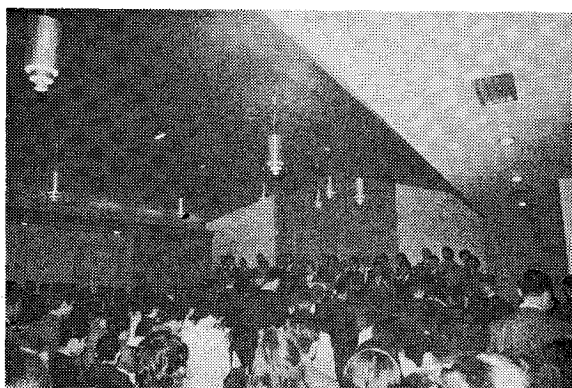
さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英知たちを見せたまひたりき。しかして、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。

神これらの靈を善しと見たまい、これらの靈の中に立ちて言ひたまえり、これらの者をわが統治となさん。神、靈なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまいたればなり。しかして、神われに言ひたまひけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたり、と。

これらの者の中に、神のごとき者一人立ちて共に在りし者たちに言ひけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。しかしてこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。しかして、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らがなすや否やを見ん。

しかして、最初の位を保つ者は更に附け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて榮を得ることなからん。しかして、第二の位を保つ者は、とこしえに榮光をその頭に附け加えられん。

主宣ひけるは、われ誰を遣わさんか。一人、「人の子」のごとくに答えて言ひけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の一人答えて言ひけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ。主宣ひけるは、われ先のを遣わさん。しかして、第二の者怒りて、その第一の位を保たず。しかしてその日多くの者たち彼の後に従え



西中央地方部大会

り。(アブラハムの書三・二二—二八) さて矢では戦いが起つた。ミカエルとその御使たちとが、竜と戦つたのである。竜もその使たちも応戦したが勝てなかつた。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなつた。

この巨大な竜、すなわち悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。(ヨハネの黙示録一二・七—九)

われ主なる神、モーセに語りて言ひけるは、汝がわが生みたる独子の名によりて退けと命じたるかのサタンは大初より在りし其者なり。彼わが前に来りて言ひ

けるは、見たまえ、われこの所に在り。われを遣わしたまえ。われ汝の子と成らん。われことごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。われ正にかくのごとくすべし。これを以てわれに汝の誉を与えよと。

されど見よ、わが愛しむ子、大初より選びたる者なるわが愛子、われに言いけるは、父よ、御旨の成らんことを、榮光とこしえに父にあれ、と。

これを以てそのサタンわれに叛きて、われ主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼさんとし、しかもまたわが持てる権能を自らに与うべきことを求めたるにより、われわが生みたる独子の権能によりて彼を投げ落さしめたり。

しかし彼はサタンと成れり、実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を欺きだまし、以てわが声に聴き従わぬすべの者を欲するままに虜となすなり。

(モーセの著四・一一四)

黎明の子、明けの明星よ、

あなたは天から落ちてしまった。

もろもろの国を倒した者よ、

あなたは切られて地に倒れてしまった

あなたはさきに心のうちに言った、

「わたしは天にのぼり、

わたしの王座を高く神の星の上にお

き、

北の果なる集会の山に座し、

雲のいただきにのぼり、

いと高き者のようになろう。」

イザヤ書一四・一二—一四

…悪魔は、われに叛きて曰く「われに汝の栄光を与えよ。その栄光はわが能力なり」と。かく言いて、また彼は天群の三分の一をその自由意志によりてわれに叛き去らしめたり。

しかしてこれらのものは、皆投げ落されて悪魔とその使たちとなれり。(教義と聖約二九・三六—三七)

われらまたこのことを見てこれが証をなす。すなわち、神の御前に於て權威ありし神の一天使、御父に愛せられてその懐に在りし、神の生み給える独子に叛きて、神と御子の前より突き落され、

天の衆群彼のために泣き悲しみたれば「滅亡」と呼ばる。彼はすなわちルシフェルなり。晁の子なりき。

われら、彼の墮つるを見たり。おお彼は墮ちたり。おお晁の子といえども墮ちたり。(教義と聖約七六・二五—二七)

この前世と天上に於ける大会議を一見すれば、神の力と人の自由意志という二つの犯すべからざる価値が立っております。究極的に分析すると人の自由意志を守っているものは神の力であります。七十人会最高評議員会のビー・エイチ・ロバーツ会長は、人の自由意志は現世に始まったものでないことを指摘しております。その意義と効果は、人間によって失われまたは歪められるか或は、より大きな力によって、犯され或はまた制限され得るのであります。けれども人が自分自

身のために、自由意志を行使するように、人の自由意志を守る事が神の目的であります。

天上の会議に於ける

キリストとルシフェル

の論争は、人の

自由意志即ち自由

に選び行動することの

重要性を強調して

おります。世の救主と

してキリストが選ば

れたことが、英知の

自由意志または道徳

的自由と関係し、そ

の時につくられたと

見なされることはできないのでありま

す。それはいかなる新しい創造をも含む

ものではなく既に実在せるものの維持で

あります。誠に英知の道徳的自由は永遠

に実在するものであります。自由は

英知の属性であり、それが取り去られる

ことはない生存のすべての喜び栄光、権

威を奪い取らずしてゐるのです。人の自由

は、その主体である英知の自由を意味し

ます。人が通過させられるすべての位に

於ける自由、神が人をして行動させるよ

うに置くすべての世界に於て、自由の特

質は人を離れません。神に従うか逆らう

か、喜びかまたは悲しみか、どちらの状

態に入るも人の自由であります。(ブリ



ガム・エイチ・ロバーツ

福音の教義の中で自由意志の重要性に就ていかなる教会の会員の心の内にも疑問があるべきではありません。これなくしては悔改めの原則、善悪の概念、救い及び進歩の計画すら無意味になってしまいます。自由意志は根本的に必要なものでなくして、いかなる英知もその定められた神の息子、及び娘としての目的に致ることはできません。信仰箇条の中で、ジエームス・イー・タルメージは、福音の機構の中で自由意志の占める本質的な重要性を指摘しております。人間はこの世で自分の選ぶままに善か

悪かを選び取り、また主の誠命に従うか従わぬかを選ぶ自由を、父なる神が人間に授けたもうた譲り渡すことのできない権利の中に受け嗣いでいると言うことは、聖典の中できつぱりと示されている教義として当教会が教えるところである。

この権利は神自身が最も警戒嚴重に護りたもうている。というのはずべて神が人間を取扱いたもう時に、神は親としての勧めと指図とを越えて強制的に或いは無理に強いることなく、人間に自由に選び自由に行動するように許しておきたもうからである。まことに、神は誠命を与え法度を立てたもうて、これに従う者は祝福を与えこれに違反する者には罰を与えると約束したもうたが、人間はこれらを選ぶ自由を束縛されてはいない。この点に関し、人間はただ罪のきづなに縛られて意志の力と身も霊もの力を失っているだけであって、そのほかは天の使と自由なところは異らない。(ジエームス・イー・タルメージ 信仰箇条の研究 六七頁)

神が人間の自ら自由に選ぶ権利を神聖に守っておられるという確信は明白に美しく、よく知られた詩に表明されております。

いかなる人生を選ぼうとも
いかなる人になろうとも
すべての人は自由であることを知るな

さい
神は天より人を強制し給わず
この永遠の真理は与えられました。

神は人を召し。すすめ、大きくさんびするでしょう。

そして知恵と愛と光を以て祝福するでしょう。
はかり知れない好意と思いやりの内に
けれども決して人を強制しません。

(ウィリヤム・シー・グレッグ)

「自由意志は自由の中へ」

自由意志と自由の用語は時としてあいまいに、同じことを意味するかのようにな混同して使用されております。この二つは密切に関係しておりますが、なおその意味は異っております。自由意志は、わたしたちが個々人として、わたしたち自身のために選ぶ、ほんとうの機会と能力を持つていることを表示しております。わたしたちは二つまたはそれ以上の内で何れかを決められるのです。けれども自由と言えられたわたしたちの選びに従って行動する能力と機会であります。自由に二つの種類、即ち、からの自由と、への自由とあります。誰でも勝手に不正に課せられている、例えば欠乏、抑圧、恐怖その他から自由になろうとしております。けれどもたとえわたしたちがこれらから解放されても或はそれに直面していても、最も大きな自由は、への自由

由であります。このようなわけで、わたしたちは、自由意志とは、可能などちらかを選ぶ権利、能力、機会であるということができます。

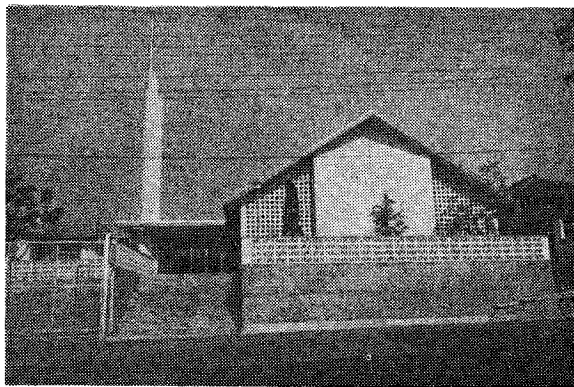
例えばあなたは、ピアノを奏くことを選んだとします。けれども若しもあなたがピアノを奏いたことがなかったとするなら、いかに音楽が好きでも、ピアノの奏き方を知りません。そして今あなたが奏くことを選んでもその選択を行動に移す知識と技術に欠けているので効果的な選択とはならないのであります。

けれどもあなたはピアノを奏くことを、習おうかどうかという効果的な選択をすることが出来ます。若しあなたが習わない方を選ばならそれで終つて、それ以上何をなす必要もないのです。ほとんどの否定的な選択がこの通りであります。けれども若しもあなたが習うことを選ぶなら即ち積極的な選択をするなら、あなたは必要な訓練と準備を受けねばなりません。あなたは音楽の知識を得、何時間も実習し、その技術をおぼえ楽譜を認めるよう

にならねばなりません。そしてあなたはいつか新しい自由を得るでありましょう。そこであなたはピアノを奏こうか、奏くまいかどちらでも行動に移せます。

あなたの音楽の習得は、以前にあなたが持つていなかったところの自由をあなたに与えるであります。

自由意志は或意味で道路の分岐点に来たようなものであります。若しもどちらの道も閉められているか或は一方だけが開かれている場合に、道の選択はありません。効果ある選択は、二つのまたそれ以上の行動できる道がある時にのみもたらされるのであります。門は開かれているといつても選択それ自身がわたしたち



阿倍野支部

を選んだ道へ伴うわけではありません。只行動だけがそうするのであります。わたしは自分の選んだ道を、急流を渡り、丘をよじのぼる恐れを退けて進んで行かねばなりません。道は歩かねばならず、ピアノは奏かねばならず、人生は生活せねばなりません。自由意志は行動する道を選ぶことであり自由は行動そのものの遂行であります。

人の自由は行動できるような常によく準備することによって成長するのです。先日わたしは、南カリフォルニアの大学の校庭に立って、オリンピック出場のために訓練をしているアメリカ合衆国のオリンピックチームを見学しておりました。見事な力強い熱練さ、その素晴らしい練習ぶりを見ていた私は、それと同じようにできるようにになりたいものだと強く感じました。世界最上の競技を競うことは、どんなにすばらしいことでしょうか。でもわたしは自分にはそのような才能がないのだと自ら慰めました。

わたしは一人の監督に近ずいて「このような才能を持っているのは素晴らしいことですね」と話しかけました。彼は答えました。「お考え違いにならないで下さい。アメリカ中にはこれらの選手たちと同じ体格、いなそれ以上の若者が何千何万ております。この人たちが持っている他の人が持っていないところのものはなすべきことをなす意欲と決意であります。あなたは、二番になろうと三番にな

ろうと或は十番になろうと、それを永久に続ける決意を持たねばなりません。これらの人々は勝利者として出発したのではなくありません。彼らは彼らの道を頂点迄苦働して闘い続けたのであります。彼らは訓練し、練習し更に訓練し続けたのであります。誰も自分自身を一番に望める人はいません。それは勝ちとらねばならないのです。ただ一度だけでなく、続けて勝ち取らねばならないのです。

これらの人たちは行動すべくを準備した人たちであります。彼らは望みを持つただけでなく、選択し、知識と熟練を得たのであります。それに加えて彼らは実行力というはかり知れない宝を得たのであります。その模範は、はっきりしております。ずっと以前に彼らは選択しました。それから無限の時間を費して一生懸命練習をしたのです。そしてだんだんと熟練して自分自身を世界最上の競争者に立向わせる迄に準備したのであります。彼らの達成は選択と、習得であります。それで彼らはオリンピックチームとなつたわけであります。

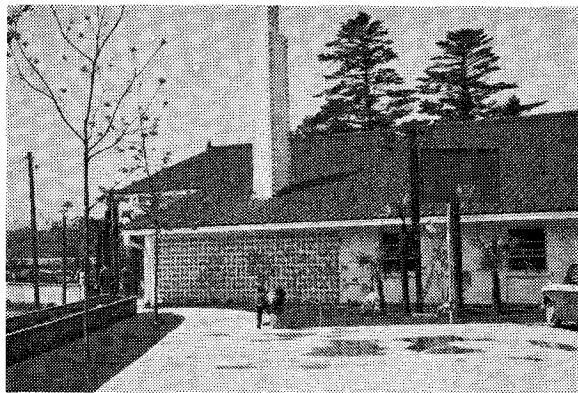
宇宙で最高の価値あるものは人間の人格であります。福音は各個人の無限の能力を強調しております。神は人を制限しません。人が選択と行動によって自身自身を制限しているのであります。もう一度わたしは内にあるわたしたちの鍵をふりかえって見ましよう。神は人が求め受けられるすべてのものを与えるの

であります。

近代の聖典は成功のいろいろの段階に達成した者に永遠の報賞が待っていることを告げております。その可能性を達成できなかった人に就て聖文は告げております。

しかしして、残れる者たちもまた生くべしといえども、彼らはまた再び自らの場所に帰り、その受くべかりしものを進んで受けざりしにより自ら進んで受くるところのものを受くべし。(教義と聖約八八・三二)

教義と聖約七十六章はイエス・キリストの福音を人の生きる道として選び、その選択を行動に移した人々に就て告げております。若しも選択するだけでよいのであれば、この地上の、無数の人は日の栄で住まうことを喜んで選ぶでしょう。けれどもこれらの一部分の人しかこの王国に入るための行動を自ら準備しないのであります。それは丁度ある者が音楽家になろうと決心したけれどもならなかったのと同様であります。この点をはっきりして下さい。自由意志を行使する選択は福音の計画に於て各個人にとって本質



群馬支部

的なものであります。けれども選択は達成への自由の入口、自覚への第一歩に過ぎません。選択は計画であり、わたしたち各人の人生の青写真であります。只実行を通してのみ選択そのものが生きるのであります。

この地上にくることは天国に入り天父と御子の御前に永久に栄えて行くべき人生の目的へ向って永遠に進歩するため天上の会議で始められた計画の大切な一部であります。

来世への必要なすべての準備は、今わたしたちの生きるこの世でなさねばならないのです。そこには適用されねばならない或条件があります。原則が受入れら

れ、儀式が受けられ、誠命が守られ、律法が従われ犠牲がなされ、奉仕がなされ家族関係が形成され、わたしたちは神の口から出るすべての言葉に生きなければならぬのです。わたしたちは、わたしたちの主なる神を全心をもって愛し、隣人をわたしたち自身のように愛さなければならぬのです。(ジョージ・エフ・リチャーズ 一九四七年十月大会)

このようにイエス・キリストの福音を選んで、わたしたちはこの選択を行動を通して、わたしたちの生活に実際に効果的なものとするのであります。それはリ―長老が言ったように、生きかたではなく実際に決った生きる道であります。

されば、われら重ねて証をなす。すなわちわれら眼にて見、耳にて聞きしゆえなり。しかし、これはすなわち正しき者の復活によりて出でくる者たちに関するキリストの福音の証なり。

これらの者は、キリストの証を受け入れ、その御名を信じ、その葬られたまひしように従ひ御名によりて水中に沈められてバプテスマを受けし人々なり。こは主の与えたまいし誠命によるものにしてすなわち、かく誠命を守ることによりあらゆる彼らの罪を洗い潔め、聖霊を授くる権能を結び固められ按手聖任せられたる者の按手によりて聖霊を受けんためなり。

しかし、これらの者は信仰によりて

打ち勝ち、御父が正しく且つ真実なる者に皆注ぎたもう約束の聖き「みたま」によりて結び固めらる。(教義と聖約七六・五〇―五三)

この啓示が語っている人たちは選択の岐路からその決心を達成へと運んで行ったのであります。そしてこの選択は積極的な正しいものでありまた福音を形成している永遠の原則に適うものは、正しい報いを受けるのであります。これらの人は神が与えようとするものを進んで受けようとし、また受ける能力のあるものたちであります。彼らは聖文が語っているところの、なす。また、なる。自由を持つている者たちであります。

御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい。

また、彼らは御父の無上完全と御父の栄光とを受けたる祭司にしてまた王たるなり。

このゆえに、すべてものは皆彼らのものなり。生けるも知ぬるも、現在のものも、はた未来のものも皆然り。すべては彼らのものにして、彼らはキリストのもの、キリストはまた神のものなり。

このゆえに彼らはすべてのものに打ち勝たん。(教義と聖約七六・五五―五六)

責任ある自由意志が真理と勉学と結合して創造的なものとなります。このゆえに彼らはすべてのものに打ち勝たん。は漠然とした約束ではありません。それは福音の目標、進歩の計画、の個人的な

達成を通じての真実の自覚であります。「心の自由」

心の自由なくしては真の意志の自由はありません。丁度教会が、神の栄光は英知なり。すなわち、光明と真理なり。

(教義と聖約九三・三六)と教えているように、それはまた人の権威は彼の自由意志を理論的に創造的に用いることにありとすることを教えております。心の自由は根本的なものであります。人は正しい選択をもって成長します。自由意志は人を進歩させる推進力であります。進歩は経験と勉学からもたらされるもので学ぶことは意義を探究することであります。各人が理知的な目的のある生活にその意義を発見するのであります。

心の自由と目的のある積極的な生活との関係に就ての一つの偉大な表現が国民教育協会の教育政策委員会によって、アメリカ教育の主要目的、と名づけられた本の中に与えられました。この声明は個人の自由の要求に就て論じております。自由が個人を高めるものでこれによって社会の価値が判断されるのであります。それは広範なものであります。

自由に必要な条件はこの自由を擁護する社会機関と、自由を成立させている個人的な委託を含みます。この何れもが自由社会を構成する個人個人の上に在るのであります。これは心の自由であります。

心の自由は各人が自分自身のために発

展させねばならない条件であります。この意味に於て誰も自由に生れた者はありません。自由社会はすべての人が心の自由を達成するような機会を持ち奨励されるような環境をつくり出す義務があります。この目的が達成されるにはその要求が明記されねばなりません。(アメリカ教育の主要目的 一九六一年 三頁 国民教育協会、教育政策委員会)

各人が自由意志を持った存在であることを自覚して自分自身の心の自由を達成することに主要な役割を果すべきであります。この自由を達成する条件は次に与えられております。

自由になるために、人は自分の選択と行動を自分自身の達成した理解と評価に基かせることができなければなりません。人は提案を受入れるところの基礎が真実なものであるべきことを自覚せねばなりません。人生に対する価値観その根拠、その成果を理解せねばなりません。また他の人は異なった価値観を持つてい

ることを認めねばなりません。人は自分を見出しその前にある諸問題を解決するような状態を分析できなければなりません。人は生涯のできごと、及びそれに作用し、形成しているところの時間と力を知覚し理解せねばなりません。人は時間と環境が実際に人の選択を制限していることを認めねばなりません。自由人は要するに自分自身と環境及びその相互関係を合理的に把握できる人であります。

心の自由を伸ばす機会には各個人個々のために備えられてありますが、そのような自由の実際の達成は、各人によつてのみ人の内に達成されるのであります。これは人が自分自身の価値をつくり出してゐることを意味してはおりません。むしろ価値と関係を見出して、それらを自身自身の生涯のために創造的に目的あるように用いることを学ぶのであります。

人は考え選ぶ自由を持っております。そしてその自由はその個人の内、及び周りの両方の状態に根ざしたものでなければなりません。社会の二重の役割は、必要な環境を保証し、必要な個人的な力を伸ばすことであります。個人的な力は思索と自覚及び審美的感覚と道徳的責任と啓発された心の容量から湧き出てくるものであります。(同上四頁)

価値の知的な理解に就てこの重要な報告は更に理論的な思索と行動を結合させておられます。

自分自身の価値を理解し、評価している人は最もよく、その上に行動しているようです。自分の価値が自分にとって貴重なものであることを学ぶと同時に、客観的によく他人の価値をも認めます。この認識を以つて価値の重要性と責任感を深めます。

自分自身を理解しようと、つとめる人は、他人が自分と多くの共通点を持つてゐることを理解するでしょう。人間の内に存在する可能性に就ての理解は、すべ

ての人に対する尊敬の念を強めます。そして他人とのつながりを認め、責任ある行動の必要を覚悟するのであります。

このように理性の力が、人間の精神のすべての資質の中心なのであります。この力が慈悲と道徳的責任感の内に成長し、全体的な個性に貢献するのであります。人間の精神に対する理性の力は車輪に対するこしきのようなものであります。

この力は完全な価値ある人生に必要な欠くべからざるものであります。如何なる理由があるにせよこの力を自己の内によく成長させていない者は現代社会に於て、だんだんと不利になつて行くのであります。最低限の社会標準に留るかも知れませんが、どうしても充分な権威を持つことはできません。ただ各人が自分の可能性を自覚できる範囲まで、特に考える能力を成長させることが、自由と共に歩む彼の権威を完全に達成させるのであります。(同上七―八頁)

福音を教えるときに、自由に考えることがその霊的な力を強めるのであります。英知に結びつけて言われる真理の光が、永遠の価値を、賢明に意義あるように実生活に適用するようにしむけるのであります。ネルス・エル・ネルソンが、これをモルモン教の科学的見解で次のように述べておられます。

モルモン教の理想に一致するような教育はただ人を実行するように訓練するこ

とであります。何をするかとたずねられるなら、その答えは、なさねばならないことをなすことであります。ですから真の教育は、人をして社会に於て、それそれその分担を遂行するように訓練することであります。知識は英知の半分に過ぎません。知識にとどまつてゐるのは間違つた教育であります。けれども自覚された真理は人の性格の中で強力なものとなります。それが人の心のうちに入り、直ちに生活に反応して行けば、もはやそれは人の内にあるものでなく、人それ自身となつてその人の心の形態様相を変え、知識は力となり、性格あるいは知恵となりまたジョセフ・スミスが用いた言葉、英知となるのであります。このような過程だけが真の教育を表わしております。(ネルス・エル・ネルソン モルモン教の科学的見解)

「責任のある自由意志

ヒーレル・シルヴァは曾て宣言しました。わたしたちは完全な責任と矛盾しない完全な自由を信じます。これは末日聖徒によく知られたことです。何となれば責任ある自由意志はモルモン経に再三でてくる最も大きな主題であります。

それであるから、あなたたちは喜び勇め。そして、あなたたちは自分の思う通りに自由があるから、限らない死の道を選ぶかまたは永遠の生命の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえて

おけ。(ニーフアイ第二書一〇・二三) それであるから記憶せよ、私の兄弟たちよ。およそ亡びる者は自分から亡び悪を行う者は自分で悪を行う。なぜならば神はあなたたちに知識を与えて自由な者になしたもうから、あなたたちは自由であつて、思うままを行うことを許されてゐるからである。

また神は善悪をわきまえる知恵と、生命か死かを選ぶ権利とをあなたたちに与えたもうてゐるから、善いことをして善い報いを受けるのも、また悪いことをして悪い報いを受けるのも共にあなたたちの自由であることをよくよく記憶せよ。(ヒラマン書一四・三〇―三二)

「されば汝ら主の道を備えよ。万の民がその行いの善し悪しに応じて報いを受くべき時節はすでに近し。行いの義しき者はイエス・キリストの権能と譴う力によりて身も霊も救はるを得、行ひの悪しき者は、悪魔の力と束縛とに負け身も霊も永遠に神の前より断ち切らるる罰を受く」と、アルマ書九・二八

一九五〇年の大会のお話でマッケイ大管長は、わたしたちは自由意志と常に伴う責任に就て覚えねばならないと強調しました。彼が指適した、この二つは常に相互依存の関係にあるのです。人が若しある行動を自由に選択したのでなかつたらその行動に就て責任をとることは正当ではあります。マッケイ大管長は「このように人の責任は自由意志に伴つて作

用するものである」と申しております。自由意志の行使に伴う責任は大小すべての人に及ぶものであります。この世の導きのみたまによる予任でさえも、自由意志の責任ある適用の下にあったのであります。

人間の意志は空気のようによ自由ですから、すべての成り行きが神によって決められていると考えることは間違っております。あなたは、わたしたちが予任を信じるかとおたずねになるかも知れませんが、わたしたちは世の誰よりも、それを強く信じております。わたしたちはイエスが世の墓がおかれる前に予任され、その使命は永遠に世の救主として任命されていたことを信じます。けれどもイエスはこの世においてになったときは、御父に従うか否か自由に選ぶことができたのです。若しも彼が御父に従うことを拒んだら滅亡の子になっていたでしょう。わたしたちもまた永遠の生命の原則を選ぶか拒むか自由なのです。神は多くの到来することを告げましたは予任のてきましたし、これからも続けてするでしょう。けれども神が民の上にあるいは個人に大きな祝福を告げるときにはある条件の上に定めるのです。ニネベは四十日間の内に滅されると告げられました。けれどもこの宣言はニネベの住民の悔改めの上に留っていたのであります。

神は始め、すべての神の子たちを神御自身と同様に自由に善または悪を選べ

るようにつくられました。そこでわたしたちは、自分の働らきによって裁かれるのであります。(ブリガム・ヤング) ウオルター・イー・ムエルダーはその著書、責任ある社会の基、の中で、神に對し責任をとることは人を權威あるものとする。自由と正義が終局の問題である。と述べ更に次のように言っております。

責任をとるためには人は目標、価値、標準、事実、人々及び必要を自覚してなければなりません。責任をとるためには人はこれらの目標、必要、標準、事実及び人々の相互関係を理解し、その結果可能な決定を持たねばなりません。責任をとるために、人は自由でしかも進んでしばしばぶつかる複雑な関係にある困難な選択に立ち向わなければなりません。またその結果及び犠牲を受入れる用意もせねばなりません。自覚及び理解は、想像及び心の力を必要とし選択と犠牲は意志の力を必要とします。すべてが一つになって道徳的成熟を要求しております。これらが自由をつくり、責任をとる人をつくるのです。(ウオルター・イー・ムエルダー 責任ある社会の基)

選択の自由は選択がもたらした結果に對する責任より以上のものを含んでおります。それは、よい選択をなす責任をも含んでおります。

だれも、ふたりの主人に兼ね仕えるこ

とはできない。一方を憎んで他方を愛しあるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。(マタイ伝六・二四)

考えないあわてた選択は殆んど長続きする価値ある結果をもたらしません。それぞれの決心はその必要度と重要性に従って、注意深い評価と吟味が必要であります。選択をおくも引き延ばすことは悪く、ある場合に不適當な選択と同様に破壊的なものになります。人生は動いており、わたしたちの機会は、わたしたちと共に永久に留っておるものではありません。わたしたちは勇氣と信仰を以って行動せねばなりません。そしてあわてて選びめぐらめつぽうな責任をとるような決心をすることなく、正しいときに正しい場所で迅速な効果的な決心をなすべきであります。

きょう選びなさい、という言葉はシケムに於てヨシユアがイスラエル人に投げかけた、挑戦の言葉でありました。これは人生に於て繰返される挑戦であります。選択は価値ある如何なる人生に於ても不常に必要とされるものであります。ヨシユアはイスラエルの車勢の前に如何に神が彼らを導き祝福したかを教えあげましたが各人が自分自身のために決心せねばならなかったので挑戦の言葉を投げかけたのであります。

それゆえ、いま、あなたがたは主を恐

れ、まことと、まごころと、真実とをもって、主に仕え、あなたがたの先祖が、川の向こう、およびエジプトで仕えた他の神々を除き去って主に仕えなさい。

もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。(ヨシユア記二四・一四—一五)

決心は終りでなく始まりであります。その一つ一つが行動に、らつされねばなりません。そしてそこから新しい生活が始められ、将来の幸福と進歩へ導くことが開始されねばなりません。つまらない決心がなされ、あるいはその決心が悪く不適當かまたは誤って考えられたものであったらただ、不義と不幸と失敗とに導くばかりであります。選ぶ権利である、人の自由意志は選ぶ権利、他のすべての力と同様に、よくも悪くも使われます。けれどもすべての人の力の内で、選択の権利が最も大切であります。何となればその決心は人生の将来のすべてを決定するからであります。ポール・ウッドリングは、この点に就て教育の主な目的を定義して次のように述べております。教育の目的に就ての声明は簡単な次の一文に綴られ、それ以上述べる必要もなく、また短かくすることもありません。

自由人の社会に於ける教育の正しい目的は各人に賢明な決心をさせるように準備すること、その他のすべてのことはこれに貢献しているに過ぎません。(ポール・ウッドリング)

賢明な決心は人生は何であるかまたその目的は何であるかに就て、明確な価値ある概念を持つていかどうかにかかっております。人生の経験を通して得た知識によって私たちは社会の力を理解し、それが私たちの生活をつくって行きます。人生を価値ある活動に導き刺激する目標を以て選択しなさい。わたしたちは知識が必要でありますが知識だけでは不十分で、その知識を実用化するために必要な、知恵、及び洞察力を得なければなりません。これらは皆福音で定義されている英知、真理の光の一部を意味しているのであります。真理は賢明な効果的な選択に必要欠くべからざるもので、真理、すべての真理は福音に含まれております。オルソン・エフ・ホイットニーは福音に就て述べております。

それは既に知られたると知られざるとにかかわらずすべての真理を含んでおります。それは過去及び未来両方のすべての英知が合体してあります。ある時期にあるいは永遠に如何なる正義の原則もまた真理も直接または間接に福音に含まれずして発見されたことはありません。それは、この世の救いの道であり。来世の

昇栄の手段であります。(オルソン・エフ・ホイットニー)

人の自由意志は人がこの地上で自身を証明し成長、達成するための基礎でありますからイエス・キリストの福音は前世に於てこれを守ったのであります。同じ理由で福音は、現世の人の生涯を教え導こうとしているのであります。人が

自由であるためには真理が必要であります。イエスは次のように言つて、これら二つを彼の教えの中に結合しました。
……もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

また真理を知るのである。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。(ヨハネ伝八・三一—三二)

理解されて、よい目的に用いられた真理は賢明な決心の基礎となります。けれども実際の選択は個人の権利として留り、選択の権利を受入れることによつて、わたしたちは自ら責任を負うものとなり、わたしたち自身の選択と決心に対し責任をとらなければなりません。

人間は自ら善悪を選ぶ自由意志が与えられていから自分の行為に全責任を負わねばならない。善い行いの究極の結果は幸福であり、悪の結果は悲惨である。これらは破ることのできない律法によつてあらゆる人間生活に伴うものである。この世には神が預め定めたもうた審判の

計画があつて、この計画に従つて人間は一人のこらず自分のした行為について申し開きをするために呼び集められ、単に行為のみでなく自分の口から出た言葉に對して、また心の中で考えたことに對してすら責任を問われるのである。(ジェームス・イー・タルメージ 信仰簡条の研究 七一頁)

ニーファイは責任は、イエス・キリストの福音の中の自由意志に欠くことのできない部分であると教えました。彼は救い主の廣い働らきは各人がその自由意志を責任を以つ実施したときに与えられるものであることを見ました。

そしてときが満ちると、人間の始祖の墮落の結果から人間を救うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の墮落の結果から救われるから、すでに永久に自由となつて善悪を弁え、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従つて律法が定める罰を受けるほかには何事も自分の心のままに行いほから強いられることはない。

それであるから、人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人のなしたもうメシヤの大いなる賢い仲裁によつて自由と永遠の生命とを選ぶが、または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから、その束縛と死とを選ぶが、それは全く人間の自由であ

る。

(ニーファイ第二書二・二六—二七)

パウロはこの原則を初期のキリスト教徒たちに次のように要約して告げました。

。まぢがうてはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを刈り取るようになる。

すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、靈にまく者は靈から永遠のいのちを刈り取るであらう。(ガラテヤ人への手紙六・七—八)

ある青年が會つて、この自由の概念に反對して言いました。主が戒を与え、それを守れば報い守らなければ罰するということにどうして選択の自由があるだろうか?

この青年がたずねているのは、自由ではなくわがままであります。彼は自分の選択に責任を負わず自分の好きなことをしたかったのであります。そのような考えは現実の人生に對する自由の關係を少しも理解してないのであります。神はわたしたちができることを、ただ制限するために律法や戒を与えるのではなく、神は曾て言われました。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりてなし多くの正しきことをなし遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己れのことを自らなす者なればなり。従つ

て人善をなさば決してその報いを失わざらん。(教義と聖約五八・二七―二八)

選択する力と自由は人の内にあります。けれどもその選択の結果も、はっきりしておりそれは永遠の律法の命するところに従うのであります。神のその子供たちに対する戒は、子供たちを宇宙の律法に調和させるにあります。この方法によつてのみ子供たちは幸福と達成を見出すことができるのであります。人が律法に従うと、従順の報いもたらされるのであります。不従順の罰は、永遠の原則に調和せず、律法を犯した結果もたらされるものであります。ただその関係を変える悔改めだけが、その結果を和らげ恵みと赦しの扉を開けるのであります。何となれば悔改めを通じて人はもう一度律法に調和させるからであります。

情け深い愛の御父なる神は無限の知恵と知識から語り、わたしたちに、その善悪の行動の結果を警告しているのであります。神はわたしたちが報いを刈り入れ人生のおとし穴をさけるように教え導き戒めておるのであります。けれどもなお選択は、わたしたち自身のものであり、同ように責任もわたしたちのものなのであります。ウィットコ長老が説明している通りであります。

偉大な無数の力がわたしたちの身边に横たわっております。人の能力は知識の成長するにつれて全く理解できないまでに達します。その力の相互作用に調和す

ることが人に要求されるすべてのことでもあります。若しもその力が十分に理解されていなければならそれを探索して、それが自分に害するものでなくためになるように努めることであります。自然を樂しむことは、わたしたちの特権であり、また義務であります。如何なる生命も自然の環境に調和することなくして善びを見出すことはできません。(ジョン・エイ・ウィットコ)

子供が熱いストーブに近ずいたとき、お母さんは「ストーブにさわってはいけません。やけどしますから」と注意します。お母さんは、熱い金にふれた痛くて泣くようになるからと子供に説明します。若しも子供がこれに従わなかったら子供をやけどさせるのはお母さんではなく、ストーブの熱であり、それをお母さんは知恵を以って注意したのです。この同じストーブが適切に用いられるときは実に有用なものとなるのです。けれども不適切に利用されるときにそれは苦痛と悲しみをもたらす危険なものとなるのであります。

子供はストーブにさわることもさわらないこともできます。苦しもさわろうとするならお母さんの見ていないときにするかも知れません。子供が善か悪かどちらを選ぶと子供は行動の結果から苦しみます。利益を受けるではありません。ストーブにさわってはいけないという母

親の戒は子供の自由を制限するものではありません。母親は自分の知識と経験に基いて、子供が自分自身の行為の結果から不幸になるのを救おうとしたのであります。

けれどもこの同じ子供が冷たい冬の暴風から入って来て、暖いストーブを樂しく見て近より気持よく暖まりますが、やけどなどしないように賢明に一定の距離に留ります。

このことは神の誠命に於ても同様に真実であります。ジョン・テラー大管長が言っているように、福音の原則は永遠で、この世が存在する前からある一定の永遠の律法に基いて、永遠に全能者と共に形成され始められたのであります。(ジョン・テラー説教集)

神が、あなたは盗んではならない。と言ったとき、人が適当に所有することを制限したではありません。むしろ正當な所有物を確保するようにとのことでもあります。語源によれば Righteousness (義)とは right wisdoms (正しい賢明さ)であります。あるいはまたものごとを正しい方法で行うことであります。神は律法を通じて神性な目的を達成します。が人もそうでなければなりません。

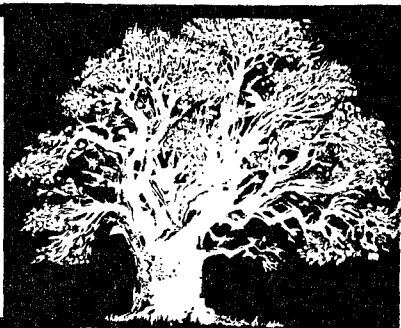
なされたすべての選択は責任を伴います。自由は人間の価値と權威の王国内の貨幣であつて両面を持っております。一面には自由、人の権利と特権が刻まれてあります。他の面には責任があります。

両面とも真正に深く刻み込まれてなければその貨幣は偽物であります。(ピー・イー・ケイ、自由の反面)

善い選択は偶然な選択でも盲目的な選択でもありません。それは理知的で責任ある選択であります。わたしたちが日常生活で、これを際限なく用いるときに、決してその重要性を見失うべきではありません。マックケイ大管長は次のように言つてその価値を強調しております。

生命について人が神から受けた最大の賜は、生活を治める権利であります。貧しく生れようと、あるいは、生れながらに遺産に縛られようと、各人にとって最も尊い賜は、人が生まれながらに相続して奪はれることのない賜、自由意志であります。

メルケゼテク神権者用 テキスト



メルケゼテク神権テキストが新年度に間に合いませんので、この分度一月二月のレッスンをして下さい。

第一部

神権はあなたに神の協力者であることを授ける。

第一課

能力と愛の神

「レッスンの目標」

(一)神の御性質と属性の良き理解、(二)神聖な神権の所有者として、より効果的に職責を果す決意を促進することを習得する。

「序論」

あなたは自分にとり全く新しくなった分野をのり越えて長い旅をしたと思われる。あなたはその旅が道中危険で点綴されていたこと、すなわち、挑戦、予知することのできない苦勞、険悪な成り行き、落胆、成功、あらゆる種類のいくたの反対者やそして教えきることのできない冒険などであったことを知っている。

また、妻や子供たちを安全に自分の目標に引きつけながら、家庭を見守る責任を持っておられたと思う。道を知り給う唯一の御方の知識と能力に近すぎになると仮定して何をなさりたいと思われませんか。

あなたはこのような旅にいます。それらは偉大な冒険です。あなたは自分の家族の責任を持ちます。あなたと妻や子供たちを自分の望まれる目標に向かわべく、知識と能力の唯一の源へと近づくことをせねばならない。神は道を知っておられる御方です。

「レッスンの展開」

神はどのような御方

アダムの時代より、神は人類に御自身を定期的に現わされ、人の形をしており神みずからの御性質と属性を所有していることを明らかに示されました。神の人の対する優越性は、人が完全に神を理解する可能性を現在さえざられている。しかしながら、神は人間が所有している性質や属性を人の形をしたお方として持つておられることを、私たちに知らせて下っています。

ここでクラスの教師が黒板に二つの見出しを書くようにして下さい。

○神の御性質

○各性質が示す声明または事件

ここで、クラスのメンバーは神の御性質を思い出すように、また、各人に示されたところを言うようにする。教師は黒板の二つの欄に答えを書きます。

神の予言者を通して御示しになった、神の性格と属性のいくつかを考えてみます。

しよう。

神会の三人の御方

ジェームス・イ・タルマツチは神会の理解のこのはつきりした声明を与えてくださった。ジェームス・イ・タルマツチ著「信仰箇条の研究」四八ページ・一九「宇宙の大管長会を構成する三人の御方はこれまでにそれぞれ人間に現われたもうた。すなわち、(一)永遠の父なる神、(二)その御子イエス・キリスト、(三)聖霊であって、これら三方が個々別々御方であり、全く別の体を各自有する御方であることは、神が人間に現われたもうたことに就いて承認された記録によって証明されている。すなわち、救い主がバプテスマを受けたもう際に、ヨハネは聖霊のしるしを認めた。また、ヨハネは自分の前に立ちたもう肉体に宿りたまえるキリストを見、キリストに聖式を執り行なうた。その上ヨハネは父なる神の御声を聞いたのである。すなわち、神会の三方はその場においてになって、各自別の方法で現われたもうた。そして各々は他と全然別箇でありたもうた。後に救い主はその弟子たちに「慰め主」、すなわち聖霊が父なる神から遣わされる約束したもうたが、ここに於いて神会の三方が区別して明らかにされている。ステパノは、かが殉教するとき天の示現を見る能力を授けられ、神の右手に立ちたもうイエスを見た。ジョセフ・スミスは熱心に主に

祈り求めている間に、太陽の光に勝る輝きの中に立ちたもう御父と御子とを見た。そして、その中の御一人が他の御一人に就いて、「これはわが愛しむ子なり。彼に聞け」と仰せになった。

神は全能であられる

タルマツヂ長老は、さらに神の偉大な力について書いている。ジェームス・イタルマツヂ著「信仰箇条の研究」五二ページ・二十四

「如何に遠くとも天地万物のどの部分にも神の御手のとどかぬ所はない。「みたま」の媒ちによって、神会は如何なるときでもあらゆるものと直接に交通したもう。……神会に属する御方の感覚は無限である。またその心は無限の包容力がある。また自からある場所から他の場所へ移す能力は無限である。今われわれが、神が体を有したもうことを承認するならば、神の物質性を認めざるを得ない。実際に、「物質的でない存在者」という無意味な言葉で神の状態を示そうとしている者があるが、こういう「物質的でない存在者」は存在するはずがない。

神は慈悲深い御方であられる

モーセはあるところで『主は彼(モーセ)の前を過ぎて宣べられた。『主、主あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と

とがと、罪をゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず……』(出エジプト記三十四章六・七)といっている。心打つネヘミヤ書にはイスラエルの強情さを取分け記録の中に語っている。「……しかし、あなたは罪をゆるす神、恵めあり、あわれみあり、怒ることおそくいつくしみ豊かにましまして、彼らを捨てられませんでした。……それにもかかわらず彼らは不従順で、あなたたちにそむき、あなたの律法を後に投げ捨て、彼らを戒めて、あなたに立ち返らせようとした預言者たちを殺し、大いに汚しことを行ないました。それでもあなたは年久しく彼らを忍び、あなたの預言者たちにより、あなたのみたまをもって彼らを戒められました。彼らは耳を傾けなかつたので、彼らを國々の手に渡されました」(ネヘミヤ書九章十七、二十六、三十節)

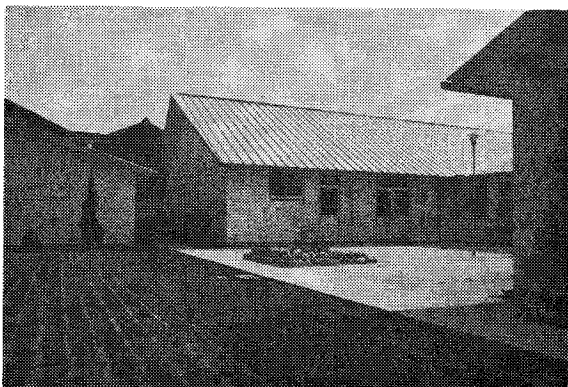
偉大なニーフアイ人の予言者であったベンジャミン王は、彼がくわしくお話ししたとき、神の御性質と属性を感じていた。「神の恵みと、ほかに比べるものもない神の権能と、智恵と、忍耐と、人につくしたもう辛抱強さとを知り……」(モーサヤ書四章六節)

この能力はあなたに何を意味するか。クラス内のメンバーは、彼らが神の権を下記のように行使するときに、神の偉大な能力の智識が彼らを如何に強める

ことができるか説明したいであろう。
一、病いを癒やす儀式を執行するとき
二、神権の責務を履行する前に祈りに主の御名を呼ぶとき
三、家族の祈りを通して主の恵みが家族の上にあるよう願うとき

神は深遠な愛を持っておられる
神の御性質の他の現われは神の愛であります。ヨハネ第一の手紙の中で、ヨハネは神を眞の愛の典型として語っています。彼はいつている「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたくしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたくしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたくしたちが神を愛したのではなく、神がわたくしたちを愛して下さって、わたくしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたくしたちを愛して下さったのだから、わたくしたち

も互に愛し合うべきである」と。
御父の愛、その御子の愛と二方の喜び
そして人の愛と喜びに関して、すばらしい章の中で、主は主の古代パレスチナの使徒たちに述べられました。すなわち、「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。もし、わたしの愛のうちにいなさい、あなたがたはわたしの愛のうちにいなければならない。わたしが父のいましめを守ったので、その愛のうちにいられるのと同じである。わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれる



群馬支部

ためである。わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」。(ヨハネ伝十五章九〜十三節)

これらいくつかの代表的な聖句の節の中で、主は御父と御子の御性質に関して多くのことがらを私たちに示しておられます。主は御自身が全能であること、すなわち、全権力があり、すべてのことを知っており、辛抱強く、慈悲深く、おこりおそく、愛の神であることを述べておられる。それから尚、神の子供たちをただ愛して、彼らがするあやまちを認めるだけではなく、主は子供たちに対して忍耐をしておられる。神は正義と慈悲両方御方であります。

もし人が悔い改めないで、贖いの力を通しての神のあわれみを受け入れないとすれば、聖典に神の怒と称される、義の要求に甘んじなければならぬ。(教義と聖約一九章十六節〜一九節)

あらゆる時代を通じて神の愛は「……：ちようど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らをいくたび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようりしなかった」(マタイ伝二十三章三十七節)と主がいわれたイエスの言葉の中に象徴されているように明らかにされている。カルバリの丘で主は無比の重い世

の罪を背負われ、人類と天父への愛のため十字架上の死をこうむられたのであった。神は私たちのためにできるすべてのことをなさって下さり、続けてそれをして下さいませ。

クラススの全員は神の模範よりいかによ

- 一、私たちの妻
- 二、私たちの子供たち
- 三、隣人
- 四、罪をおかした人
- 五、私たちの敵

神は私たちが神格を得るように望んでおられる

神はわたくしたちの御父さまであられる故に一つの計画、それは私たちが神さまのようになれる助けを計画なさり、提

供して下さいました。神はこれが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなりと示されました。(モーセの書一章三十九節)

人間のための一般的な目標と目的に加え、主は子等が経験できうる他の明白な目標を御示しにされました。いくつかの明白なものは、すなわち、人に命を得させ豊かに得させるためであり(ヨハネ伝十章十節)、完全な者となるため(マタイ伝五章四十八節)、平安を得るため(十六章二十三節・ピリピ書四章七節)、幸

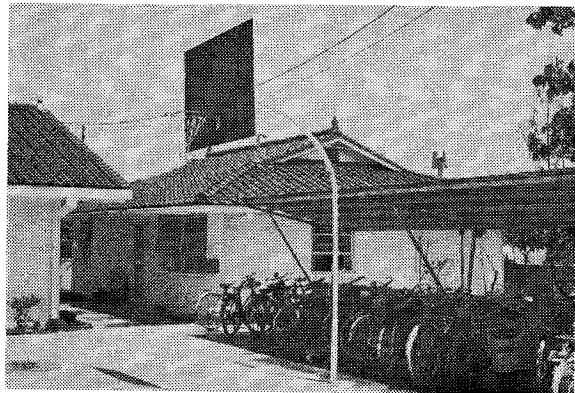
福を得んためであり

(第二・ニーフアイ・第二書二章二十六節)、そして諸天使諸神の前を通り過ぎ神々となることなどでありませ。(教義と聖約百三十二章二十節)

根本的に、主は私たちが神さまのようになられることと神の栄光を分ち与えるように望んでおられます。主は「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」といわれました。

神は私たちが目標を達成する方法をお与えにされました

主はただ目標を私たちに教えられたばかりではなく、その目標が私たちに自覚できるような方法を備えられました。その目標は、単に抽象的な理想ではありません。それは、主を謙遜にうけ入れて、主の高邁な御教えに感謝の気持で従うすべての神の子供たちの手の届くところに在る現実にあるものであります。人が約束された高いこの上もなく貴い特権



群馬支部

の一つは、彼は神を知ることができるということですが。主は申されました、「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるのである。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうもしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。わたしのいましめを心にいだいてこそこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛するものは、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し

私たちが住むこの世は孤立した存在ではなく、完全に永遠の一部であるという事実の視界を見失うべきではない。福音は過去と同様未来を取りまくすべてのものを理解させます。私たちはある偉大な驚歎すべきことの一部であります。

この世は神の御能力により、神の霊の子供たちのために組織されました、創造のときから、アダムは聖なる神権の能力と権能をもっておられた。

アダムは最初に神権を受ける

予言者ジョセフ・スミスは「ジョセフ・スミスの教え」ジョセフ・フィレンツァ・スミスの集録一五七ページ「神権は最初にアダムに与えられ、彼は大管長を構成し、その福音の神権の時代から時代への鍵を持っていた。創世記一章の二十六節、二十七節、二十八節の中にあるように、創造に於いて、すなわち、この世が形造られる以前に、アダムは神権を得ていた。アダムにすべての生物をおさめる統治権が与えられた。彼は聖句に語られている、天使長ミカエルであります。次にガブリエルであるノア、すなわち彼は神権に於いてアダムの次に立ちます。ノアはこの職に神より召され、今日の全人類の父であり、彼には統治権が与えられている。これらの人たちは最初に地上で、また天上にて、鍵を持って「おられた」と語られた。

あらゆる福音の神権の時代を通じ、神

はその神性な作用に預り享有する機会を人々に与えられました。主は特別な鍵と聖なる神権の召により祝福されるべき多くの人々を起用しました。

鍵を持った他の人々

アダム、またはミカエルは代々神権の鍵を持っていました。ノア、またはガブリエルも神権の鍵を持っていました。主はエライジャや「全地が阻いをもて撃たれざんがため、先祖の心に子を思わせ子らの心に先祖を思わしむる力の鍵を託せる」(教義と聖約二十七章九節)

ペテロ、ヤコブ、ヨハネに、主は彼らがこの世に生きているその時代に伝道する鍵を託された。(教義と聖約二十七章十二節、ヨハネ伝十五章十六節を参照せよ) ペテロ、ヤコブ、ヨハネは「時満たる福音の神権の時代」私たちの神権の時代の鍵をもっています。(教義と聖約二十七章十三節と百二十八章二十節を参照せよ)

ペテロ、ヤコブ、ヨハネについて、主はまた「すなわちわが王国の鍵と、終りの世に於ける、および天と地の両方にあるすべてのものを寄せ集むべき「時満たる」時代に於ける福音の神権の時代とを託したる……」と言われた。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーはこれらを持っていたが、しかし、彼らは王国の鍵と神権の時代とを教義と聖約百二十八章二十節の中に示されているように

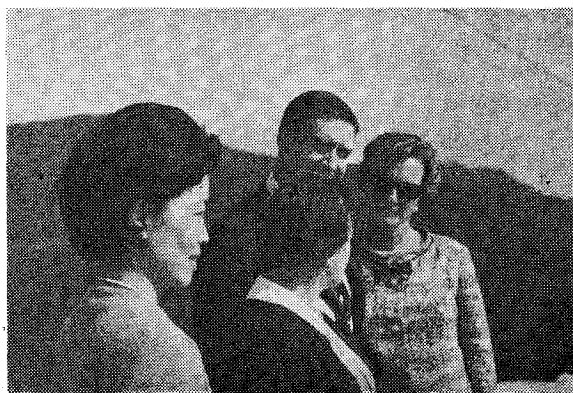
ペテロ、ヤコブ、ヨハネより受けました。これらの人々に加えて、特別な召しを持っていた幾人かの他の人々は特別な

鍵を持っていました。勿論、アブラハム、イサク、ヤコブのエホバとのすばらしき彼らの聖約は適切な例であります。

たぶん聖約の最も明らかかな声明はアブラハムの書の中に記録されたものでありましょう。

「わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以て、わが手汝を覆わん。われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。

われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに教えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。われは汝を祝福する者を祝福し、汝を呪う者を呪わん。



また汝(すなわち汝の神)により、汝のすえ(すなわち汝の神)による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によって、世界の眷族ごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり。

創造より、過去の福音の神権時代を通じて、私たち自身の時代まで、主は聖なる神の鍵を準備なさり保護なさいました、それによって、神の子供たちが聖なる神権にまつわる権利、特権、祝福をよ